

JTF JOURNAL

2019

03/04 #300

翻訳の現在を知る

巻頭特集

翻訳支援ツール2019



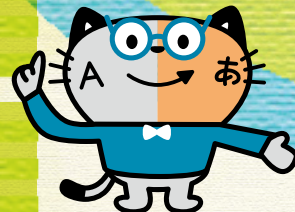
翻訳学校サン・フレア アカデミーは、
創業45年の翻訳会社である株式会社サン・フレアを母体とする翻訳学校です。

1日完結型のセミナーを月2～3回開催しています。
翻訳初心者も、プロとして活躍中の方も参加できる多彩なプログラムをご用意。

マイページからお申込みいただくと、金額に応じたポイントが付与されます。
ポイントは講座やセミナーの受講、商品購入時に使えて大変お得です。

講師は全員現役の翻訳者。
通学科・通信科とも、指導力と熱意のある講師が担当いたします。

サン・フレア アカデミー
公式キャラクター
「ほんにゃくん」



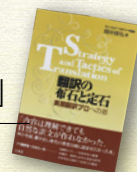
通学科の曜日・時間帯、通学科から通信科への変更が可能です。

海外での受講および「TQE」の受験が可能です。

翻訳会社サン・フレアとの協力体制をより強化することで、
講座修了後のTQE受験とその後のサポート体制を充実させています。



学院長・岡田 信弘著
「翻訳の布石と定石」



新規受講生には
『翻訳の布石と定石 ～実務翻訳プロへの道～』
(岡田信弘著、三省堂)を差し上げます。



お問合せ ☎03-6675-3965
受付時間 平日10:00～20:00 土曜10:00～17:00
(日曜・祝日休校)

詳しくはウェブサイトで

サンフレアアカデミー

検索



私たち、知財コーポレーションは、
人と社会を大切にします。
「学び」と「挑戦」の姿勢を貫きます。
言語の力で世界の発展に貢献します。

事業内容

- 特許翻訳
- 国内／海外出願用図面作成
【特許・意匠】
- 海外出願事務代行サービス
【海外特許出願の新ルート】
- 海外特許調査
【各国の特許調査および翻訳】

- 知財アカデミー®
【教育・情報提供】
- 知財ヒューマンリソースズ®
【知的財産専門の人材紹介】
- 中国知財裁判情報提供

フリーランス翻訳者常時募集中!

応募方法など詳細は www.chizai.jp へアクセス下さい

www.chizai.jp



株式会社 知財コーポレーション

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目10番地1号 日土地西新宿ビル7F
TEL 03-5909-1181(代) FAX 03-5909-1183 E-mail inquiry@chizai.jp
創立：1976年 ISO 9001:2008 認証取得

選ばれる理由
No.1は

「直感的につかえる」「シンプルで覚えやすい」

業務効率化のための 翻訳支援ツール

 **MEMSOURCE**

—— メムソース ——

30日無料トライアル版

<https://www.memsource.com/ja-pricing>

**日本語ブログ・マニュアル
トレーニング動画**

<https://www.memsource.com/ja/blog/>

 **MEMSOURCE**

本社: Spálená 51 110 00 Praha 1 Czech Republic (チェコ共和国プラハ)

日本窓口 〒171-0022
東京都豊島区南池袋2丁目49-7 池袋パークビル1階

TEL 050-6864-4180 **Email** japan@memsource.com

異なる言語の人をつなぐ

Cross Language



クロスランゲージでは、ビジネスを一緒に創造していく多様な人材を募集しています。

～ 私たちは、「母国語」で多様な文化をわかり合える世の中を目指しています～

募集職種

(正社員) 営業・コーディネーター (フリーランス) 翻訳者・校閲者・ネイティブチェッカー・DTPオペレーター・通訳者

募集言語

英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語・ポルトガル語・ロシア語・フランス語・イタリア語・ドイツ語・スペイン語 等

応募方法

履歴書・職務経歴書を添えて下記メールアドレス宛にご応募ください

営業・コーディネーター: recruit@crosslanguage.co.jp (担当 亀山)

翻訳者・校閲者・ネイティブチェッカー・DTPオペレーター・通訳者: oubo@crosslanguage.co.jp (担当 大久保)

★経験者から初心者まで、在宅でもオンサイトでもお仕事多数あります。(一般労働者派遣事業許可 13-306042)

株式会社クロスランゲージ

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル2階

TEL: 03-5215-7640 (代表) FAX: 03-5215-7634

CROSS
LANGUAGE

詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://www.crosslanguage.co.jp>

募集中!

営業、コーディネータ、
校正スタッフなど、多くの人材を
各拠点で募集しております!

言語 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
韓国語 等(その他言語も募集中)

分野 特許・工業・医薬・金融・ローカライゼーション

内容 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注
オペレーター 等

応募方法 下記ウェブサイトからご応募下さい

株式会社 翻訳センター JASDAQ
証券コード:2483

大阪 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL:06-6282-5010 E-Mail:info@honyakutr.co.jp

東京 東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル8階
TEL:03-6369-9965 E-Mail:freelance@honyakutr.co.jp

名古屋 名古屋市中区錦3丁目25番11号 日生村瀬ビル4階
TEL:052-959-2901 E-Mail:nagoya@honyakutr.co.jp



医薬翻訳
Medical



工業翻訳
Industry



Financial
金融翻訳



HONYAKU
CENTER
New Standards in Translation
株式会社 翻訳センター



Patent
特許翻訳



募集要項・会社概要等、詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://www.honyakutr.com/>

What you seek is What you Get!

のぞむものを、かたちにします。
目指しているものを、実現します。

ウィズウィグでは従来の医薬翻訳に
加え、技術翻訳、多言語翻訳(54か国語
対応)業務を拡大し、お客様のニーズに
応えるため、翻訳者を募集しています。

詳しくはウェブ サイトをご覧ください。

「WysiWyg(ウィズウィグ)」という社名は、「What You
See Is What You Get (表示されたものがそのまま
出力されるという意味の DTP 用語)」からとったもの
でした。

今、私たちはそこに「k」「l」を加え、
望むものをカタチに、目指しているものを実現する
という強い思いを込めています。

WysiWyg

株式会社 ウィズウィグ
〒104-0032
東京都中央区八丁堀 2-21-2 コア京橋ビル 6F
TEL: 03-5566-1669 FAX: 03-5566-4808
<https://www.wysiwyg.co.jp/>

医学翻訳教室「アンセクレツォ」/派遣サービス「WW スタッフینگ」
ウィズウィグではスキル向上を目指す人のための翻訳教室と働き甲斐のある
職場をご紹介します。派遣サイトで、医薬業界で働く方々をサポートしています。

医学翻訳教室
アンセクレツォ

WWスタッフینگ
Trained & Educated Staffing Services

翻訳の現在を知る

JTF JOURNAL

#300 2019 03/04

c o n t e n t s

6 翻訳業界カレンダー

巻頭特集：翻訳支援ツール 2019

- 8 翻訳支援ツール 2019
- 10 SDL Trados Studio 2019 SR1 ● SDL ジャパン株式会社
- 12 memoQ 8.7 ● memoQ Translation Technologies
- 14 Memsource ● Memsource
- 16 ロゼッタ T-400 ver.2 ● 株式会社ロゼッタ
- 18 Mirai Translator™ ● 株式会社みらい翻訳
- 20 ヤラクゼン ● 八楽株式会社
- 22 解説：次世代の翻訳支援ツールに期待する24のポイント ● 河野 弘毅

翻訳会社の声

- 24 翻訳会社の過去、現在そして未来
● 株式会社メディカル・トランスレーション・サービス 中野 尚徳

連載記事

- 26 翻訳と私 第14回 翻訳が教えてくれたこと ● 児島 修
- 28 翻訳テクノロジー論考
第4回「やさしい日本語」と翻訳テクノロジー その1 ● 立見 みどり
- 30 言葉を紡ぐチカラ 第3回 ペア翻訳のすすめ ● 蔭山 歩美/ジョナサン・M・ホール
- 32 キャンパスで学ぶ翻訳通訳
第3回 翻訳通訳学メディア『ワカテ翻訳』とは ● 平岡 裕資/大西 菜奈美



表紙撮影：世良 武史

JTF JOURNAL

JTFジャーナル

2019年3/4月号 #300

発行人 ● 東 郁男(会長)

編集人 ● 河野 弘毅



JAPAN TRANSLATION FEDERATION

一般社団法人 日本翻訳連盟

〒104-0031

東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F

TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604

info@jtf.jp http://www.jtf.jp/

無断転用禁止 ©2019 Japan Translation Federation

		イベント名	内容	講師等	主催
2019 3	12-15	言語処理学会 第25回年次大会 (NLP2019)	3月12日(火) チュートリアル 3月13日(水) 本会議 第1日 3月14日(木) 本会議 第2日 3月15日(金) 本会議 第3日 http://www.anlp.jp/nlp2019/	会場：名古屋大学 東山キャンパス	言語処理学会
	15	2018年度 第3回 JTF 関西セミナー	「AI翻訳が製薬業界を変える ～現場からの報告～」 http://www.jtf.jp/west_seminar/index_w.do?fn=search	隅田 英一郎 (情報通信研究機構 (NICT)) 田中 倫夫 (アストラゼネカ株式会社) 早川 威士 (株式会社アスカコーポレーション)	日本翻訳連盟 (JTF) 関西委員会
	24-27	GALA 2019 Munich	翻訳業界団体として世界最大級である GALA の年次大会。 https://www.gala-global.org/all-events/gala-2019-munich/	会場：The Westin Grand Munich (Germany)	Globalization and Localization Association (GALA)
4	14	日本翻訳家協会 総会・講演会	年次総会および講演会 (13:30-15:00) 講演会は一般参加できる。 「坂東俘虜収容所小史-「坂東の奇跡」が問いかけるもの」 http://www.japan-s-translators.com/	松宮 克昌 (翻訳家) 会場：学士会館 302 号室	NPO 法人日本翻訳家 協会
	18	TAUS Global Content Summit Tokyo	前日 4/17 には同じ場所で Quality Management Workshop を開催。 https://www.taus.net/events/conferences/73-taus-global-content-summit-tokyo/	会場：オラクル青山センター	TAUS
5	2-3	BP19 Translation Conference	翻訳者による翻訳者のための独立イベント。欧州で 2014 年より開催 されており、今年は 40 カ国から 300 名の翻訳者が集まる見込みとし ている。 http://bpconf.com/	会場：ZANHotel Europa (Bologna, Italy)	BP Translation Conference
	9-10	ND Focus - Elia's networking days for Executives	LSP の経営陣だけを対象としたカンファレンス。会社の規模を問わな い点が特徴。ネットワーキングの機会となるだけでなく、経営者なら ではのテーマに的を絞って深い意見交換ができる点が特徴。 http://events.elia-association.org/nd-focus-exec-2019/	(Dubrovnik, Croatia)	Elia (European Language Industry Association)
6	2-7	NAACL-HLT 2019	2019 Annual Conference of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics: Human Language Technologies. 自然言語処理のトップクラスのカンファレンス。 https://naacl2019.org/	Hyatt Regency (Minneapolis, USA) 6/4 The social event : Minneapolis Institute of Art.	Association for Computational Linguistics (ACL)
	5	2019 年度 JTF 定時社員総会	2018 年度事業報告、収支報告 2019 年度事業計画、予算審議 http://www.jtf.jp/	会場：アルカディア市ヶ谷 (私学会館)	日本翻訳連盟 (JTF)
	11-13	LocWorld40 Portugal	Registration Opens 20 March 2019 https://locworld.com/	会場：Estoril Congress Center (Estoril, Portugal)	Localization World, LTD
7	28 -8/2	ACL 2019 Annual Meeting Florence	自然言語処理の No.1 トップカンファレンス。特に近年、機械翻訳に 関する画期的技術が発表される場になっている。3 年周期で北米、ア ジア・オセアニア、ヨーロッパで開催される。 http://www.acl2019.org/	会場：Fortezza da Basso (Italy)	Association for Computational Linguistics (ACL)
8	19-23	MT SUMMIT XVII	研究者、開発者、産業界および政府の機械翻訳 (MT) 技術のユーザー が集まって MT の最新技術、その主な動向と実用的な応用について情 報交換する。サミットには翻訳者のためのトラックもある。 https://www.mtsummit2019.com/	会場：Helix Theatre at Dublin City University (Dublin, Ireland)	European Association for Machine Translation
10	24	第 29 回 JTF 翻訳祭	「新たな時代の幕開け～言葉のスペシャリストたちの 新しい船出～」 http://www.jtf.jp/29thfestival/	会場：パシフィコ横浜	日本翻訳連盟 (JTF) 第 29 回 JTF 翻訳祭実行 委員会
11	3-7	EMNLP-IJCNLP 2019	Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing (EMNLP) & International Joint Conference on Natural Language Processing (IJCNLP) 2019 自然言語処理のトップクラスのカンファ レンス。 https://www.emnlp-ijcnlp2019.org/	会場：Asia World Expo (Hong Kong, China)	SIGDAT, AFNLP (Asian Federation of Natural Language Processing)
	3 or 4	WAT 2019	The 6th Workshop on Asian Translation http://lotus.kuee.kyoto-u.ac.jp/WAT/WAT2019/index.html	(Hong Kong, China)	NICT, 京都大学
	6-8	LocWorld41 Silicon Valley	Registration opens August 7, 2019 https://locworld.com/events/locworld41-silicon-valley-2019/	会場：未定 (Silicon Valley, USA)	Localization World, LTD
2020 5	11-16	LREC 2020	The International Conference on Language Resources and Evaluation http://www.lrec-conf.org/	会場：Palais du Pharo (Marseille, France)	ELRA (European Language Resources Association)

注意：この記事に掲載した情報は各団体がウェブサイトなどで公開している情報をもとに JTF ジャーナル編集部が編集執筆しています。内容には正確を期していますが、万一誤りや不適切な内容がございましたら日本翻訳連盟事務局までお知らせください。

フリーランス

特許翻訳者募集 (日英翻訳)



正確性・明確性・簡潔性を基本に、意味等価な翻訳を
心がけている翻訳者の方、歓迎いたします。

Job Titles ①特許翻訳者 ②特許翻訳校正者

Language 日本語 ⇒ 英語

Field 制御、電気・電子、化学・材料

Qualifications 技術翻訳または特許翻訳経験 5 年以上

Application ご希望職種①または②をご明記の上、
履歴書・職務経歴書を下記のメールアドレス
に添付してお送りください。

info@patdev.jp (採用担当宛)

*書類選考を通過された方にはトライアルを
実施いたします。



定期的に当社社員との交流会を実施しています！

<https://www.pdi-ip.jp/>

会社概要やその他の採用情報は
ウェブサイトをご確認ください。



株式会社 国際特許開発
Patent Development International, Inc.

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-12-5 四谷 ISY ビル 3 階
お問い合わせ Tel: 03-3355-1071 Fax: 03-3355-0115

事業内容

≫ 外国特許出願支援業務 ≫ 特許翻訳・技術翻訳業務
≫ 国内外特許事務代行業務 ≫ 知的財産関連セミナー

J T F I N F O R M A T I O N

2019年度 JTFジャーナル「広告募集中！」

本誌掲載広告は印刷版 (PDF版) をお申し込みいただくとともに、
JTFジャーナルWEBサイトにもバナー広告が掲載できます！
印刷媒体とWEB媒体から、翻訳者・翻訳会社にターゲットを絞ったPRに最適です。
1号のみから、年間を通して掲載いただくお得な年間プランもございます。(会員様はさらに割引！)
掲載枠に限りがございます。お早めのお申し込み、お待ちしております！



ハイブリッド広告で
PR効果アップ！

印刷媒体
ページ広告



WEB媒体
バナー広告



一般社団法人
みっ 日本翻訳連盟
Japan Translation Federation

お申込み、ご不明な点は？

E-mail: **info@jtf.jp**

JTF 事務局まで





翻訳支援 ツ 巻頭 特集 ル 2019

「道具は社会関係にとって本質的である。個人は自分が積極的に使いこなしているか、あるいは受動的にそれに使われているかする道具を用いることで、行動している自分を社会と関係づける。彼が道具の主人となっている程度に応じて、彼は世界を自分で意味づけることができるし、また彼が自分の道具によって支配されている度合いに応じて、道具の形態が彼の自己イメージを決定するのである。」

イヴァン・イリイチ¹

¹ イヴァン・イリイチ著『コンヴィヴィアリティのための道具』渡辺京二/渡辺梨佐訳（ちくま学芸文庫）より引用。イリイチ（1926-2002）は現代産業社会に対する問題提起で80年代に日本でもブームを呼んだ思想家。その後は忘れられていたが、ITの揺籃期であった70年代にはここで引用した著作が当時の若き技術者たちに思想的視点を提供、主著『社会を脱学校化する』ではネット社会の未来を予言しており、再評価されつつある。

1 分間で振り返る翻訳支援ツールの歴史

Trados以前にもIBM TM/2などの翻訳支援ツールはありましたが、産業翻訳の現場で最初に普及したのはTradosでした。パソコンの登場にともないITマニュアルのローカライズという、それ以前には存在しなかった需要が急に現れた結果、翻訳の供給が需要に追いつかなくなり、不便を感じたマイクロソフトその他のITベンダーが90年代なかばに翻訳生産性の改善手段として外注先の翻訳会社にTradosの利用を要請したことが普及のきっかけになりました。

その後2000年代のインターネットの急速な発展にともない、まず翻訳メモリを中央のサーバーに集約するクライアント・サーバー型のツール (Idiom WorldServer) が登場し、続いて2010年代にはブラウザ上で翻訳できるクラウド型のツールも登場しましたが、そもそも過去訳を再利用するという翻訳メモリ (以下TM) の有効性が活かせる翻訳分野が意外に少なく、ツール開発ベンダー各社ともIPOを断念してM&Aで「上がり」にする展開が続きました。

機械翻訳エンジンのフロントエンドとしての翻訳支援ツール

転機となったのは2014年のニューラル機械翻訳 (以下MT) の登場です。エンジンだけでは自動車にならないのと同じで、MTエンジンを翻訳者が作業できる作業環境 (ワークベンチ) に仕上げるにはフロントエンドとしてTMの引用、辞書の自動検索、過去訳の参照、訳文のQAチェックなどの各種翻訳支援機能 (CAT機能) を備えた翻訳支援ツール (CATツール) が必要です。このようなツールはユーザーから見ればCATとMTの機能が一体化されて見えるわけで、今回紹介するツールもすべて両者の機能を備えています。これらに加えて翻訳会社でコーディネーターが行う作業を支援する翻訳管理機能まで備えたツール (TMS) もあります。

MTはTMより適用範囲が広いため、現代のMTフロントエンドとしての翻訳支援ツールは以前のTMワークベンチとしての翻訳支援ツールよりも市場が大きいようです。2010年代にこの分野への参入企業が増えたことがその証左でしょう。

道具は使うもの、道具に使われてはいけない

翻訳支援ツールや機械翻訳エンジンはあくまでも道具にすぎず、それらを使うのは人間です。しかし、道具とそれを組み込んだ社会的しくみが一定の水準を越えて発展すると、道具が人間の働き方を決定するような、映画『モダン・タイムス』で風刺された逆転現象が起きやすくなります。

道具のユーザーである私たちが、そのような「道具に使われる」事態に陥らず、これからも「道具を使いこなす」主体にとどまり続けるためには、「思慮深さ」と「道具の理解」が必要だと思えます。冒頭のイリイチのメッセージは「思慮深さ」への戒めとして掲げました。この特集が「道具の理解」に役立つようであれば幸いです。(編集部 河野)

SDL*

SDL Trados Studio 2019 SR1

SDLジャパン株式会社

<https://www.sdl.com/jp/>

お問い合わせ

03-5773-1471

sales-jp@sdl.com

「SDL Trados Studio」は業界標準の翻訳支援ツールです。企業から行政機関、個人の方まで世界中で20万人を超える翻訳者に利用されています。

翻訳作業を進める中で「似たような文を以前にも翻訳したな?」という場面に出会うことがあります。そのような時に翻訳支援ツールは自動的に「○○%の割合で類似した過去の原文に対し、このような訳文が記憶されています」と翻訳例を提示します。その結果、翻訳者の労力が軽減されるだけでなく、翻訳者によって文体がぶれることを防ぎ、翻訳のクオリティを上げる効果も期待できます。

こうした翻訳支援ツールの草分けと言えるほどの歴史を持つSDL Trados Studioですが、その最新バージョンであるSDL Trados Studio 2019 SR1の新機能とメリットについてご紹介します。

Walk Me — ビギナーに役立つヒント集

SDL Trados Studioは翻訳支援ツールとしての歴史が長く、機能の充実度はトップクラスなのですが、それだけに「どこから親しんでよいのか分からない」という困惑を招くおそれがありました。そのような時のために「役立つヒント」というボタンやタブがソフトウェアの画面に配置されています。こちらをクリックすることで、ソフトウェアの各画面に応じた操作法のマニュアルや動画が表示されます。



ビギナーが操作法を独学で習得できるよう配慮された新機能が、この「Walk Me」です。ビギナーだけではなく既存ユーザーにとっても「操作法を教える手間」を省けるというメリットがあります。

Tell Me — 目的の機能にクイックアクセス

度重なるバージョンアップによって、SDL Trados Studioは多彩な機能を獲得してきました。使用可能なコマンド数は700、また設定可能な項目数は1,300を数えます。これほどの多岐にわたる各機能に効率的にアクセスすることも、作業効率の課題となります。

そこで「Tell Me」と呼ばれる操作項目の検索機能が追加されました。ソフトウェア画面の「行いたいことを入力してください」という検索ボックスにキーワードを入力することで、関連した機能や設定項目がリストアップされます。例えば「プロジェクト」と入力すると、このように関連項目が表示されます。



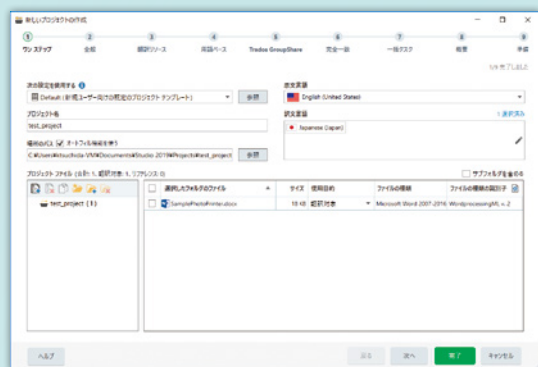


表示された項目をクリックするだけで、目的とする機能のメニュー画面にアクセスすることが可能です。また、新たな機能を発見することもあります。

ユーザーへの情報提供を充実させ、ソフトウェアの操作をより豊かな体験としてもらうことを目指したSDL Trados Studio 2019の新機能、それがWalk MeとTell Meです。

効率的なプロジェクト作成ステップ

SDL Trados Studio 2019ではプロジェクト作成ウィザードが一掃されました。ステップの自由度が上がり、必要最小限の操作でプロジェクトの作成を完了できるよう工夫されています。



こちらがプロジェクト作成の最初の画面です。必須の数項目（プロジェクトの保存場所、言語方向、原文ファイル）を設定した後は、画面上部のMetro Mapより任意の設定画面に自由にジャンプし、必要なオプション設定のみを追加してプロジェクト作成を完了します。もちろん最初の画面の設定項目のみで作成を完了させることも可能です。

プロジェクト作成ウィザードの操作効率を見直したことで、画面クリックの手間が以前に比べ最大32%削減されることを確認しました。

便利になった統合エディタで即戦力のTMを

SDL Trados Studioの中心技術と言えるものが、「翻訳メモリ」です。作業中に入力された翻訳は、原文と対応する訳文のペアの形で、翻訳メモリ（以下TM）というデータベースファイルに記憶されていきます。この翻訳例の蓄積によって、過去の翻訳の流用が可能になります。

新規のTMをすぐに役立てるため、SDL Trados Studioの「整合」機能が活躍します。すでに翻訳がなされた原文ファイルと訳文ファイルのペアが手元があれば、両者をSDL Trados Studioで読み込み、センテンス同士を対照させ、原文と訳文のペアを作成します。その結果をTMにインポートすることで、すぐに流用可能なTMに仕立て直すことができます。

この機能は以前から存在していましたが、SDL Trados Studio 2019 SR1において統合エディタの操作性が格段に向上しました。直感的でストレスの無い整合作業が可能です。

強化されたTM検索と互換性への配慮

SDL Trados Studio 2017より追加されたupLIFT機能により、TM再利用の可能性が広がりました。TM内の原文を構文解析することで、センテンス単位よりもさらに細かく、単語やフレーズ単位で翻訳を再利用することが可能になりました。しかしこの仕様変更によりTM互換性の問題が懸念されていました。

SDLはこの問題を重視し、SDL Trados Studio 2019 SR1用に最適化されたTMであっても旧バージョンにおいて使用されたTMと同様の解析結果が得られるよう、ソフトウェアの改善を行いました。旧バージョンのユーザーも安心してSDL Trados Studio 2019 SR1へ移行できます。

さまざまな機械翻訳ベンダーと連携

SDL Trados StudioはTMにより過去の翻訳を呼び出すことが可能ですが、同時に機械翻訳のエンジンをリソースとすることも可能です。SDL BeGlobal、SDL LanguageCloudといったSDLの機械翻訳ソリューションだけでなくGoogleのニューラル機械翻訳を使用することも可能です。またプラグインを使用することでMicrosoft TranslatorやロゼッタT-400とも連携することができます。

また、新規の翻訳に対してまず機械翻訳で下訳を当て、それをレビューしたポストエディットの結果を決定訳としてTMに登録し、今後の翻訳に再利用するという併用方法も有効です。

バックアップのための充実したナレッジベース

翻訳支援ツールとしての長い歴史とともに、SDL Trados Studioは充実した機能と多くのユーザーを獲得してきました。膨大なユースケースの中で蓄積された技術的なノウハウは、それ自体がSDL Trados Studioの財産となっています。

使用中にエラーが発生した場合でも、ナレッジベースに解決方法を探すことができます (<https://gateway.sdl.com/>)。

またSDL Communityに投稿すれば、SDLスタッフやエキスパートユーザーからのアドバイスを得ることができます。以前から日本語での投稿が可能でしたが、日本語のランディングページもオープンし、日本国内のユーザーによりフレンドリーな印象となりました (<https://community.sdl.com/tp-jp>)。

SDL Trados Studioには有償保守メニューが用意されていますが、その一方でこのような無償のリソースによってモビゲーターをバックアップし、「難しいソフトウェア」という印象が払拭されることをSDLは目指しています。

SDL* Trados Studio

memoQ 8.7

memoQ Translation Technologies
<https://www.memoq.com/jp/>

お問い合わせ

+36-1-808-8313

担当：三浦 陽 (Miura Yo) yo.miura@memoq.com

Account Executive, Japan

memoQはより翻訳しやすいツールが欲しいという意思のもと翻訳者が翻訳者のために開発した翻訳環境です。

memoQがリリースされてから約15年になります。

memoQ translator proはスタンドアロンで使用できる翻訳者様用の翻訳支援ツール (CAT) です。翻訳メモリや用語ベース、機械的チェックツールなど必要な機能すべてがツールに内蔵されています。翻訳対象文書をmemoQ内の翻訳エディタで開くなどの基本的な処理も非常に軽快です。さらに64-bit版Windowsで使用すると64-bit版memoQが起動し、さらに処理スピードが上がります。

翻訳会社様や企業様が翻訳業務を管理しながらチームワークで作業したい場合には、memoQのサーバーソリューションがあります。

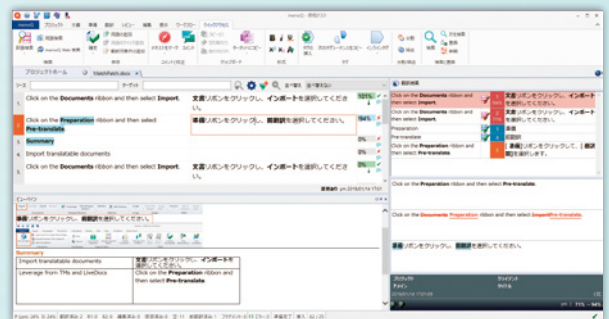
この記事ではmemoQで翻訳作業をするメリットおよびサーバーソリューションで翻訳管理するメリットをご紹介します。

memoQでの翻訳作業

memoQで文書を翻訳するにはプロジェクトを作成し、そこに翻訳対象文書をインポートし、使用する翻訳メモリや用語ベースなどを登録します。

翻訳作業はmemoQ内の翻訳エディタで行いますが、文書がセンテンス単位でセグメント分けされ、各セグメントを翻訳する際には右側の翻訳結果ペインに流用できる翻訳メモリの候補や用語ベースからの用語の提案が表示されます。翻訳メモリからの候補は原文との差分が表示されるので、翻訳メモリを流用する助けになります。

翻訳メモリ内の翻訳をファジーマッチとして流用する場合、差分個所の修正は自動補完機能 (MatchPatch) により用語の置き換えや機械翻訳による差分修正が実行されるのでmemoQの行った修正が正しいかを確認するだけで済む場合もあります。



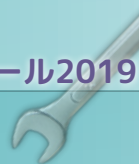
最新版memoQ 8.7ではiPhoneやiPadのSiriを使用する音声入力アプリHey memoQ (無料) と接続でき、音声入力による翻訳作業が可能です。

memoQ内で機械翻訳の使用も可能です。現在約15種類の機械翻訳エンジンをmemoQ内で使用することが可能です。お持ちのアカウント情報・APIキーなどをmemoQ内の該当MT用プラグインに登録すると、翻訳メモリを使用できない場合に機械翻訳からの翻訳を使用してポストエディットすることも可能です。

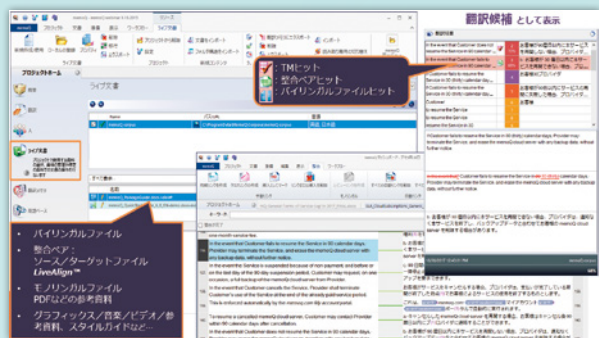
翻訳対象文書として一般的なファイル形式のほとんどをサポートしており、対訳集形式のエクセルファイルや変更履歴付きワードファイルの翻訳も可能です。パワーポイントファイル内にエクセルファイルの表が埋め込まれている場合、埋め込みファイルも翻訳対象としてインポートできます。またmemoQの最近のバージョンでは字幕翻訳もレビューでビデオを確認しながら行えます。

他社翻訳支援ツールとの互換性も高く、他社翻訳ツールのパッケージファイルをmemoQで翻訳し、返却パッケージを作成することも可能です。

初めて翻訳支援ツールを導入する場合、翻訳メモリが充



実するまでは生産性が上がらない可能性を心配されるかもしれませんが、memoQ内のライブ文書(LiveDocs)という第3のデータベースに過去の原文ファイル・訳文ファイルを整合ペアとして取り込むと自動アライン機能で翻訳メモリと同様のデータベースが生成されます。整合ペア以外にも別のツールからのバイリンガルファイルも翻訳メモリと同様に機能します。さらに原文または訳文PDFなどを取り込み参考資料として検索もできます。



memoQ内にはQAという機械的なチェックツールが内蔵されており、各セグメントの翻訳時、さらに翻訳後のファイルに対して一括で最終チェックできます。用語ベースの用語が正しく使われているか、翻訳の揺れはないか、書体は適切か、原文と同じ数字が使われているか、訳文の長さは適切かなどを検査できます。

翻訳後に特定のキーワードがどのように翻訳されたかを確認したい場合、memoQはキーワードによるフィルタリングが可能です。またはキーワードが含まれるセグメントを抽出した仮想文書も作り出せるので、最終チェックも容易に行えます。

原文と同じレイアウトを保持した訳文ファイルは翻訳のどのタイミングでも生成できます。

memoQ サーバーベースソリューション によるチームワーク翻訳

チーム内で翻訳メモリや用語ベースを同時共有したい、一つの大きな文書をメンバーと共同で翻訳したい、翻訳作業の後に別の作業者に翻訳校正をしてもらいたいなどチームワークで翻訳作業を行う必要がある場合、memoQのサーバーベースソリューション(製品名: memoQ serverおよび memoQ cloud)を使用すれば、このようなチームワーク作業がスムーズかつ効率に行えます。

これは、月額使用料でのご利用も可能で、弊社が保守管理するクラウドサーバー、またはオンプレミスでも導入できます。

memoQサーバーベースソリューションではサーバー上に翻訳プロジェクトを作成し、各作業者はサーバー上の翻訳文書、翻訳メモリ、用語ベースに直接アクセスして作業し

ますので、ファイルの受け渡しやファイル管理などの余計な作業を省けます。

またプロジェクト管理者は各作業者の進捗状況をリアルタイムで確認できるので必要に応じて作業者を再割り当てすることも容易に行えます。

翻訳作業・翻訳校正作業はデスクトップ版 memoQ または ブラウザー版 memoQ の翻訳エディタで行います。

もし各作業者が自分の memoQ ライセンスを所有していれば、そのライセンスを使用して作業に参加できますし、サーバー側から作業者ライセンスをプロジェクトベースで貸し出すことも可能です。

翻訳終了後に「納品」ボタンを押すことで直ちに Email で翻訳校正者に作業開始の通知が送られますので、シームレスなワークフローを組めます。

翻訳プロジェクトの作業履歴、各セグメントの翻訳履歴、Email 通知の履歴すべてが保存されるので、翻訳管理を確実に行えますし、特定の段階の翻訳に戻すことも可能です。

翻訳・校正作業時に翻訳メモリの問題や用語に関する問題などが見つかった場合、問題のあるセグメントでディスカッション機能を使い問題点を指摘すると、その問題に関するトピックが立ち上がり、担当者はどのように対応すべきかを簡単に指示を出せます。Email や電話などで問題点を話し合うよりも格段に効率よくコミュニケーションできます。

Plunet や XTRF などの業務管理システムで翻訳案件を管理しておられる場合、API で統合すれば業務管理システムから memoQ を操作できます。

また WordPress などのコンテンツ管理システムを使用しておられる場合、API により新規・更新コンテンツを自動的に memoQ の翻訳プロジェクトに取り込み、翻訳後にはシステムに戻すことが可能です。

もし翻訳会社と顧客間、企業内の部署間で翻訳受発注を効率化したい場合、Customer Portal を memoQ サーバーとともに導入することで翻訳依頼や翻訳ファイル受領をブラウザベースのインターフェースで行えます。

また顧客や他部署と共同で用語管理したい場合、ブラウザベースの用語管理システム QTerm を導入することでさらに進んだ用語管理を実現できます。QTerm 用語ベースは memoQ と完全互換しており、memoQ の翻訳プロジェクトで使用できます。

すべての memoQ 製品および関連製品は 30 日間の無料トライアルで全機能をお試しいただけます。

サーバー関連製品のお問い合わせは三浦 (yo.miura@memoq.com) までご連絡ください。

ありがとうございました。

Memsource

Memsource

<https://www.memsource.com/ja/>

お問い合わせ

メムソース 日本窓口

japan@memsource.com

050-6864-4180

国内外で急速に支持を広げる 翻訳プラットフォーム

Memsourceはチェコ共和国ブラハで2010年に誕生した、CATとTMSが一体となった翻訳プラットフォームです。2012年に一般公開されてからわずか7年の間に、世界中で18万人以上のユーザーを抱える主要CATツールの1つに成長しました。今では400以上の言語、50以上のファイル形式に対応しており、翻訳の品質向上とコスト削減に直結する機能を多く備えています。

「2017年度翻訳白書（JTF発行）」の翻訳会社を対象にしたアンケートでは、日本で2番目に導入企業が多いCATツールに挙げられており、国内でも着実に支持を集めていることがわかります。

クラウド型プラットフォーム

Memsourceの特徴の1つがクラウド型という点です。この点を最大限に活かした3つのメリットをご紹介します。

初期費用・ランニングコストが低い

必要な数のPM（プロジェクトマネージャ）アカウントの月額料金のみですぐに利用を開始できます。一定数のリンギストアカウントが無料で付与されるため、翻訳者への費用負担が生じません。利用料金には24時間365日の迅速なメールサポートも含まれるので、安心してご利用いただけます。

安全性が高い

Memsourceのシステム・データは、各種のセキュリティ基準に適合した高いセキュリティレベルを持つ欧州のデータセンターにて管理・バックアップされます。翻訳資産を1つのプラットフォームに集中させ、ユーザーのアクセス権を適切に設定することで、社内管理するよりセキュアに運用できます。さらにMemsourceはより便利で安全なツールを目指し隔週でダウンタイムゼロの製品アップデートを行っておりますので、常に最新の製品をお使いいただけます。

共同作業の加速と品質向上

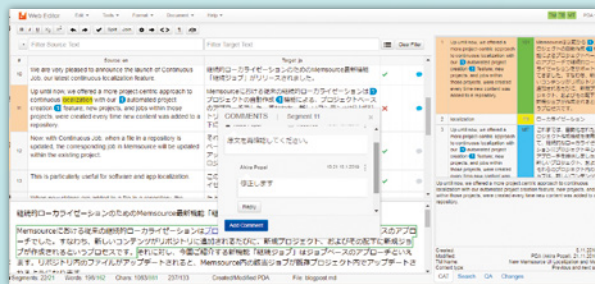
Memsource上の原稿、翻訳メモリ、用語集はリアルタイムでアップデートされるので、円滑な共同作業が実現します。手間がかかるだけでなく、情報漏洩リスクも高いメール添付によるデータ送受信は不要です。モバイルアプリを利用すれば、移動中でも作業の進捗を確認できます。

シンプルな操作性

Memsourceの翻訳環境には、ブラウザから利用できるWeb Editorと、PCにインストールしてオフラインでも作業できるDesktop Editorがあります。どちらもCATツールに求められる諸機能を完備しながら、シンプルなUIで直感的に操作できるようにデザインされています。CATツールを初めて使う方でも、翻訳メモリの参照、用語の登録、タグの挿入などの基本的な操作をすぐに覚えることができます。

翻訳のスピードアップに役立つ機能

- 「用語集違反」や「不要なスペース」など、30以上の項目を1クリックでチェックできるQA機能
- 翻訳者⇄校正者⇄PM⇄クライアント間で、セグメント毎にコメントを追加できる会話機能
- WordファイルやHTMLファイルの訳文挿入後のイメージを確認しながら翻訳作業を行えるプレビュー機能





これらの他に、正規表現にも対応した強力なフィルタ機能や、翻訳の品質を評価するためのLQA機能など、高度な機能も充実しています。

サードパーティ製品との連携

シンプルでありながら、カスタマイズ性が高いのも Memsources の特徴です。独自ドメインや自社のロゴ・ブランドカラーを適用できることに加え、他社サービスと簡単に連携できるように設計されているので、従来の作業手順や環境を活かしながら導入できます。

コネクタで他社サービスと簡単連携

Google Drive や BOX、WordPress や Marketo など、主要なファイルストレージ・CMS サービスと連携するためのコネクタが用意されています。数分で完了する設定を行うだけで、これらのサービス上で保存・更新されたファイルから自動的にプロジェクトを作成し、翻訳済みファイルをエクスポートすることができます。

すべての機能が API 対応

Memsources の REST API はすべての機能をサポートしています。これにより、コネクタが用意されていないサービスや社内の独自システムとも自由に連携させることができます。

柔軟なインポート・エクスポート

Memsources 上のデータは複数の形式でインポート・エクスポートできます。TMX や Excel にも対応しているので、これまでに蓄積したメモリや用語集を活用し、任意の形式でバックアップを保管することができます。

豊富な機械翻訳エンジンに対応

急速に活用が進む機械翻訳ですが、上手に利用するコツは翻訳分野と言語ペアに合ったエンジンを選択することです。Memsources は 30 種類以上の無料・有料の翻訳エンジンに対応しています。NICT、東芝、ヒューマンサイエンス、熟考、Mirai Translator など、国内の主要エンジンもサポートしていますので、日本語翻訳でも分野に応じて機械翻訳の力を効果的に利用できます。

新登場の AI 搭載機能

Memsources は、人工知能の力で翻訳テクノロジーを前進させることを目的に、2017 年に AI チームを発足しました。それから 1 年の間に 2 つの革新的な機能がリリースされています。

翻訳不要箇所の検出機能

産業翻訳の原稿には、数字、アドレス、コードなどのみで構成される翻訳不要のセグメントが多く含まれています。こ

れらのセグメントを翻訳作業の前に AI が検出することで、作業者のリソースを翻訳が必要な箇所に集中させることができます。弊社調査では、この機能により 3～10% のコスト削減が実現しました。

MTQE（機械翻訳の品質評価）機能

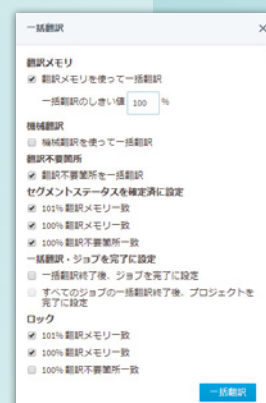
機械翻訳で下訳を行い、翻訳者がポストエディットを行うというフローが珍しくなくなってきています。確かにコスト削減には役立ちますが、機械翻訳の品質は未だに安定していないため、ポストエディットの手間とコストを正確に予測するのは難しいのが現状です。この機能では、機械翻訳の品質を AI が判定して表示することで、ポストエディット作業を品質の低い訳文に集中させることができるようになります。将来的には、複数の翻訳エンジンの出力結果からもっとも品質の高い訳文を提案できるようになる予定です。

ワークフローの自動化

クラウド型 TMS である Memsources にはワークフローの自動化機能が多く用意されています。例として、ここまでで取り上げた機能を活用したフローをご紹介します。

全自動ワークフローの例

クライアントが共有 Google Drive フォルダに原稿ファイルを保存→関連する翻訳メモリ・用語集がセットされたプロジェクトが作成され簡易見積が送信される→機械翻訳で下訳を行い、翻訳不要箇所や機械翻訳品質の高い訳文をロックして登録翻訳者にアサインメール送信→翻訳が完了したら前ステップでロックしたセグメントも含めて校正者にアサインメール送信→校正が完了したら翻訳済みファイルを Google Drive の納品フォルダにアップロード



以上の流れを、PM が一切手をかけることなく実現できます。営業時間外でも進行が止まることはありません。案件のステータスをリアルタイムで確認できる他、トリガー毎に設定されたアドレスに通知メールが届くので、進捗の管理も容易です。

翻訳テクノロジーを味方にする

今回で紹介した以外にも Memsources は翻訳の品質向上とコスト削減、快適な翻訳環境の実現を支援する機能を数多く搭載しています。本記事の内容やその他の機能の詳細については弊社ホームページやブログにてご紹介しています。進化し続ける Memsources にぜひご注目ください。

執筆／ボバル 明（日本語コンテンツ担当）



ロゼッタ T-400 ver.2

株式会社ロゼッタ

<https://www.rozetta.jp/>

お問い合わせ

0120-105-891

info@jukkou.com

担当：赤坂

そもそもなぜ 翻訳会社がMT開発？

ロゼッタの設立は2004年、当初は人手翻訳事業と並行して、翻訳者が効率よく翻訳を行うための翻訳支援ツールの開発を行っていました。そのため、「技術ありき」でツールを商品化するのではなく、あくまで翻訳現場作業の効率化を目的とし、ユーザー（翻訳者）の課題や意見を開発に反映し解決するという、現在まで徹底してこだわっているロゼッタの開発方針はこの時期に形作られました。

「国際ビジネスにおける言語の壁を破壊する」ためのMTツールの構想は設立当初から抱いており、2006年にはロゼッタとして最初のMTツールである「熟考」をリリースしました。当時はまだMTといえばルールベースが主流だった時代に、日本語⇄英語の統計型MTの走りとしてリリースされた熟考は、その後、MTに加えて翻訳支援ツールの機能を搭

載した「熟考Z」、さらにその進化版として顧客企業別のカスタマイズが可能なテイルメイドMT「T-400」へと姿を変えていきます。

機能追加を繰り返しエンジンを改良、その名称を変えてきたロゼッタのMTツールですが、これまで10年以上に渡り培われた知見は、2017年11月にニューラルMTエンジンに切り替わったことで更に爆発的にユーザー数を増やし続けている最新の「T-400 ver.2」にも生かされています。

ここからは、特徴的な機能に焦点を当て、翻訳者にとって「使える」ロゼッタ製MTツールについて、「自動化」をキーワードにご紹介します。

専門用語リサーチを「自動化」する

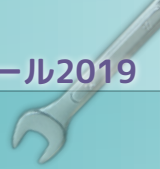
そもそも、翻訳は情報を扱う高度な知的生産業務です。そして、その現場で翻訳者が用いる情報は「知識ベース（知っていること）」と「リサーチベース（調べること）」に大別されます。後者について、昨今のWebの普及によってリサーチ作業は以前より格段に楽になったとはいえ、「辞書には載っているが、この業界（分野）でこの訳語は使われているのか。また、それはどのくらいの頻度なのか。」をWebからリサーチする工数がどうしても翻訳作業の足を止めてしまいます。

そのリサーチの自動化を実現したのが、ロゼッタが作り上げてきた2,000分野の訳語統計データベースです。Web上でも使える訳例付き分野別統計辞書「究極の辞書」（※画面1）という名前でピンとくる翻訳者は多いのではないのでしょうか。

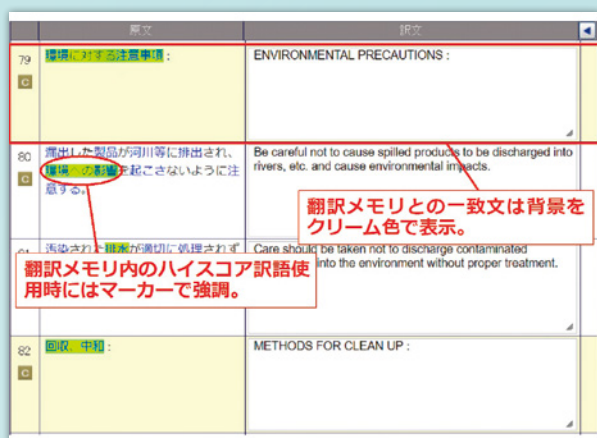
これはニューラルMT用に用意した膨大な翻訳の学習データを分野別に管理しているもので、MT実行時に指定した分野でそれぞれの単語やフレーズがどう訳されているのかを統計的に解析して翻訳結果に反映してくれます。これまで翻訳者自身が行っていた対象分野における専門用語の訳出リサーチを、すべてMTが自動で行ってくれるのです。

power		power		power	
名詞・形容詞	訳語の使用例	名詞・形容詞	訳語の使用例	名詞・形容詞	訳語の使用例
電源	【JIS B 3035】電源点（電源点）【JIS B 3035】電源点（電源点）	権限	【法令（通信促進法）】（法令）（輸出点）【JIS B 3035】（JIS B 3035）	駆動力	【JIS B 3035】（JIS B 3035）
34%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）	39%	【法令（通信促進法）】（法令）（輸出点）【JIS B 3035】（JIS B 3035）	10%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）
10%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）	10%	【法令（通信促進法）】（法令）（輸出点）【JIS B 3035】（JIS B 3035）	10%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）
10%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）	10%	【法令（通信促進法）】（法令）（輸出点）【JIS B 3035】（JIS B 3035）	10%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）
7%	【JIS B 3035】（JIS B 3035）	5%	【法令（通信促進法）】（法令）（輸出点）【JIS B 3035】（JIS B 3035）		

画面1：分野別統計辞書「究極の辞書」



また、T-400のエディット画面（※画面2）では、原文に付いたリンクをクリックするだけで（原文を解析して自動でリンクを付けます）、究極の辞書の訳語が画面内に表示されるため、PE段階においても、専門用語のリサーチにかかる工数を従来と比較して大幅に削減できます。



画面2：エディット画面（の一部）

過去対訳の参照を「自動化」する

この特集のテーマは「翻訳支援ツール」ですが、翻訳者にとって翻訳支援ツールを用いる主要なメリットの一つは、翻訳メモリの活用ではないでしょうか。翻訳メモリとは過去の翻訳結果を格納したデータベースですが、MTツールがそのメモリを参照することで新規翻訳にかかる作業量を減らすことが可能になり、また、統一性を保った翻訳をサポートしてくれます。

ただし、翻訳メモリの活用と言えば、いわゆるセンテンス単位の完全一致文（マッチ率100%）の置き換えや、類似文の参照にとどまっているケースが多く、もう一步踏み込んだ翻訳メモリ活用法の登場が待たれ、このテーマは翻訳者や企業の翻訳担当者からも多くのご要望をいただいています。

T-400の「翻訳メモリ内の単語・フレーズ自動解析機能」は、そのような要望から生まれた、画期的な機能です。翻訳メモリ（対応形式はCSV/TSV/TXT（タブ区切りテキスト）/TMX）をT-400に登録するだけで解析が自動で行われ、翻訳メモリ内で使用されている単語・フレーズが、以後のMTに反映される仕組みです。翻訳メモリ内で用語に揺れがあったとしても、メモリ内での出現頻度の高いハイスコア訳語を解析によってチョイスします。さらに、出現頻度をエディット画面から確認できるこの機能は、クライアント単位での用語・フレーズ集を分けて管理ができるため、翻訳作業着手前に個別に「用語集」を作成する手間から翻訳者を開放します。もちろん、一般的なMTツールに備わっている、自前の用語集のインポートとMTへの反映にも当然に対応しています。

機械(AI)との協働

ここまで、T-400がMTツールとして翻訳者の仕事を「自動化」する機能に焦点を当ててご紹介してきました。これらの機能は冒頭に記述した通り、すべて翻訳者の声から開発が行われ、翻訳者にとって“一番使えるツール”であることを第一に考えて開発してきたものです。それでもロゼッタが解決すべき課題はまだ多く、今後も一層開発を加速していきます。

「今後、ロゼッタのMTはどこまでいくのか?」「MTは翻訳者を淘汰してしまうのか?」「翻訳者という職業は今後なくなるのではないのか?」…これらはよく頂く質問です。これに対するロゼッタの回答は、「MTは今後さらに発展するが、完全に人間の翻訳者にとって代わることはない」です。

これは翻訳に限った話ではありませんが、AI技術の発展は、人間が行う仕事を劇的に変化させます。ホワイトカラーの仕事において、人間とAIの協働が当たり前となっていく現在の計算機時代ですが、しかし、ここで忘れてはいけないことは、あくまでもAIはツールであり、人間の仕事をサポートしてくれる存在だということです。

その意味は、「もっとこうだったらいいのに」と人が夢想することと、それをテクノロジーによって解決する両輪が必要だということです。その片輪を、今後もロゼッタは担っていきます。

これまでMTと距離を置いていた翻訳者の方や、興味はあるけれどなかなか手が出なかった方、この機会にロゼッタのMTを試してみてください。そして、ぜひあなたの「あんなこといいな、できたらいいな」を教えて下さい。その分だけロゼッタは成長し、きっとあなたの強力なパートナーになれると確信しています。

執筆／赤坂 彰（株式会社ロゼッタ MT事業部 マネージャー）





MiraiTranslate
みらい翻訳

Mirai Translator™

株式会社みらい翻訳

<https://miraitranslate.com/>

お問い合わせ

03-6434-1340

info@miraitranslate.com

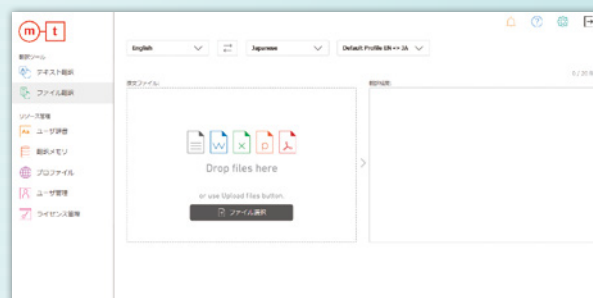
高精度・高セキュリティの機械翻訳サービス

みらい翻訳は、「言語の壁を超え、新しい生活と仕事の様式をもたらす共通語の機能を機械翻訳として2028年までに作る。」をビジョンに2014年に設立した会社です。エンジンの開発者、翻訳精度の研究者、アプリケーションの開発者など各分野に特化した技術者を多く擁し、社内で研究から開発、運用までを一貫して行える技術力を備えていることを強みの一つとしています。研究と開発の成果として2017年に提供を開始したのがMirai Translator™です。

Mirai Translator™は、企業内でのビジネス利用を想定したクラウド機械翻訳サービスです。情報通信研究機構（NICT）との共同研究のもと独自に開発したエンジンを搭載しています。

翻訳機能として、入力したテキストの内容を翻訳する「テキスト翻訳」と、投入したファイルをそのまま翻訳する

「ファイル翻訳」の2種類を備えています。ファイル翻訳ではMicrosoft®のWord®、Excel®、PowerPoint®のほか、テキストファイル、PDFファイルも翻訳が可能です。PDFファイルはOCRでテキストを読み取り、翻訳結果をWord®ファイルで生成します。



「ファイル翻訳」利用画面

日本語に特化したエンジン開発

みらい翻訳では、専門の技術者が高精度・高性能の翻訳エンジンを実現するための日本語に特化した翻訳エンジンの絶え間ない開発・改良を行っています。現在提供しているのは日本語⇄英語、日本語⇄中国語（簡体字）の4言語方向で、日本語に特化し細かいチューニングを行っているため日本語が読みやすい点を多くのお客様から高く評価していただいています。今後は、現在の4言語方向に加え、その他の言語対応も行っていく予定です。

セキュリティとデータの管理

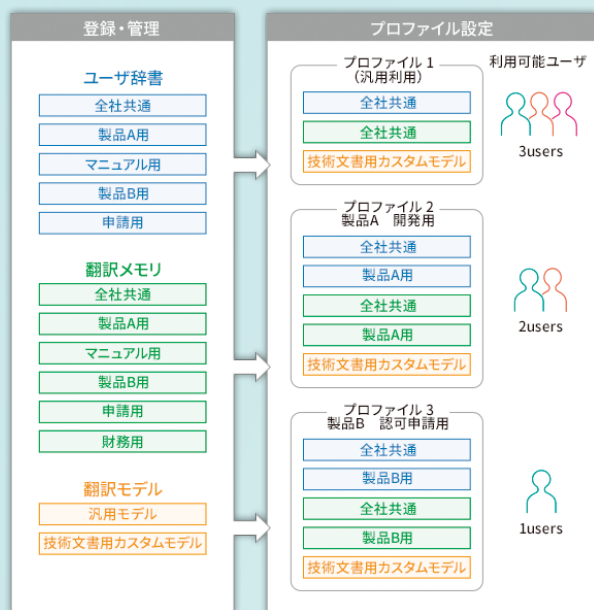
機械翻訳のご利用においては、機密性の高い情報の翻訳を希望するお客様も多く、安心してご利用いただくために、みらい翻訳はサービス提供にあたり厳しいセキュリティ要件を設けています。セキュリティの確保されたクラウドサービスであるAmazon Web Services上にサービスを構築した上で、あらかじめ登録したIPアドレス以外からのアクセスは制限することで、サービスのセキュリティを担保しています。2018年6月には情報セキュリティマネジメントの規格であるISO27001の認証も取得し、この要件に準拠した運用を行っています。

またクラウド機械翻訳サービスのご利用にあたっては、入力した内容や投入したデータが意図せず収集・利用されることを懸念されるお客様が多いですが、Mirai Translator™では入力された内容は翻訳終了後に削除される仕組みになっています。Mirai Translator™ではサービスに投入されたデータを収集したり、みらい翻訳での学習に使用したりすることは一切ありません。また、そのことをお客様のサービス上処理される情報に対する秘密保持条項としてサービス利用規約に明示し、それに基づく厳重な管理を責任を持って行っています。

カスタマイズ可能なNMTエンジン

Mirai Translator™に搭載している翻訳エンジンは、ニューラル機械翻訳 (NMT) を採用しています。従来の方式 (ルールベース、統計型) と比べ、なめらかで読みやすい訳文が生成しやすい一方で、用語の指定等の制御がしづらい側面のある方式ですが、技術者の研究により、用語・文章の対訳をそれぞれ「ユーザ辞書」「翻訳メモリ」として登録し、翻訳結果に反映する機能を実装しています。この機能を活用することにより、翻訳後の修正の少ない訳文を生成することが可能です。

ユーザ辞書と翻訳メモリは、一定以上の権限を付与されたユーザにおいてのみ登録・管理が可能です。権限を持ったユーザがあらかじめユーザ辞書、翻訳メモリを登録し、それを使用するユーザの組み合わせを「プロファイル」として設定します。翻訳を実施するユーザは、翻訳実行時にプロファイルを選択するだけで必要な情報が設定でき、複雑な操作は必要ありません。情報を管理する側にとっても、社内の言語資産を適切に使用できるよう管理できるというメリットがあります。なお、ユーザ辞書、翻訳メモリとしてインポートできるのは、tsv ファイルおよび csv ファイルです。



プロファイル機能で目的に応じた翻訳

使いやすいインターフェース

実際にはユーザ向けのマニュアルをもちろん提供していますが、最終的にはマニュアルの不要なインターフェースとすることを目指し、日々改良を重ねています。直観的でシンプルなインターフェースは、翻訳が専門でないユーザでも抵抗なく利用でき、全社的に導入していただく企業様も増加しています。機能面だけでなく、カラフルで明るい色使いも Mirai Translator™ のテーマの一つです。

CATツールとの連携

翻訳者以外の方からもご好評いただいている Mirai Translator™ ですが、社内翻訳者として翻訳を専門とする方にお使い頂くケースも多く、そういった方々からの要望にお応えするためCATツールと連携するためのコネクタを2019年度に順次提供予定です。サービス開始後にはTrados、Memsource、memoQなどのCATツールから、翻訳エンジンとして選択可能になります。

お客様の声と今後の予定

Mirai Translator™はサービスの提供開始以来、製造業・IT業を初めとして多岐にわたる業界で広く導入していただけてきました。「ビジネスコミュニケーションに必要な語学力は備えている社員が多いため翻訳ツールは不要」とされていたお客様から、「海外からの大量の文書の内容を急いで知りたい場合にはやはり日本語になっているほうが効率よく把握でき、Mirai Translator™の導入が大幅な業務効率の改善につながった」というフィードバックをいただいたのは、非常に励みになりました。

また、それが本来業務ではない人材に、英語や中国語ができるという理由で翻訳業務が集中し時間を取られてしまうケースが解消できたという事例も多いようです。「社員の語学力がMirai Translator™の導入により一瞬で底上げされたのと同じ効果があった」という嬉しいお言葉をいただくこともありました。

一方で、「自社の専門分野に特化した内容にも対応してほしい」「英語・中国語以外の言語でも利用したい」といったご要望をいただくことも多く、こういったフィードバックを開発予定に組み込み、向上し続けるサービスを目指して Mirai Translator™ は今後も改良を重ねます。

※みらい翻訳ならびにみらい翻訳を含む商標およびみらい翻訳ロゴは、株式会社みらい翻訳の商標または登録商標です。

ヤラクゼン

八楽株式会社

<https://www.yarakuzen.com/>

お問い合わせ

03-6416-5315

シンプルなのに賢く、 セキュアな翻訳ソフトウェア。

ヤラクゼンは、シンプルなオンライン翻訳ツールです。翻訳の経験がない一般のビジネスマンでもその日からすぐに使える使いやすい操作性が特徴です。

価格は個人が無料～、企業だとユーザー数に合わせて¥12,000/月～と導入しやすい価格体系になっています。

<https://www.yarakuzen.com/>



ドラッグ&ドロップで すぐに使えるシンプル画面

ワードやエクセルなどをドラッグ&ドロップして言語を選

ぶと機械翻訳がスタート。翻訳エンジンはGoogle翻訳やマイクロソフト翻訳、みんなの翻訳などドキュメント毎に柔軟に選択できます。機械翻訳がスタートすると、ユーザー毎に割り当てられる翻訳データベースと照合して、ユーザー毎に最適化された機械翻訳が出力されます。その機械翻訳の結果をユーザーがオンラインで修正して、レイアウトを維持したまま翻訳ファイルを出力できます。(23言語対応。サポートファイルは .docx/.xlsx/.pptx/.pdf/.html/.csv)



自動翻訳を編集→そのままダウンロード。 ファイル編集の煩わしさは一切、不要。

自動翻訳の後、テキストを編集の上、元レイアウトそのまままで翻訳ドキュメントがダウンロードできます。ヤラクゼンの自動翻訳、自動ファイル処理により、ゼロから翻訳する場合と比べて劇的にスピードが向上します。編集には「自分で編集」「注文」「翻訳マネージャーに依頼」の3つの方法があります。

自分で編集する：

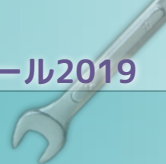
右パネルに出る文例や辞書、機械翻訳を参照して、翻訳します。

外部翻訳者に注文する：

注文したい文章だけを選んで、プロの翻訳者やクラウド翻訳に注文できます。

翻訳マネージャーに依頼する：

社内の外国語が得意なユーザー「翻訳マネージャー」に翻訳ドキュメントを共有して、翻訳できます。



**翻訳の状況を一目で確認。
よく使う翻訳ドキュメントは、
テンプレート化して皆で共有。**

過去の翻訳文は、ドキュメントページで一元管理できます。

翻訳ドキュメントには「マイドキュメント」「カンパニードキュメント」「ヤラクドキュメント」の3種類があります。

マイドキュメント:

自分が今までに翻訳したドキュメントです。翻訳マネージャーに共有することもできます。

カンパニードキュメント:

翻訳マネージャーが共有したドキュメントです。契約書やIR資料、メール雛形など、社内テンプレートとして利用できます。

ヤラクドキュメント:

ヤラクゼンの全ユーザーが利用できるテンプレート集です。一般的なビジネスメールや飲食メニュー、議事録のテンプレートが利用できます。



**編集したテキストをフレーズ集に蓄積。
使えば使うほど、成長する翻訳。**

編集したテキストはフレーズ集に自動で蓄積され、次の機械学習に活用されます。フレーズ集には「マイフレーズ」と「カンパニードキュメント」があります。

マイフレーズ:

自分が編集した翻訳文です。

カンパニードキュメント:

「翻訳マネージャー」が編集した翻訳文です。社内のメンバーに共有され、マイフレーズより常に優先適用されます。



**用語集で訳ブレ防止+翻訳スピードの向上。
従来のエクセル管理から解放。**

用語集に単語を登録すると、自動翻訳時に変換されます。社内用語や業界用語、専門用語を登録して訳ブレを防ぎ、従来のエクセル管理が不要になり、用語検索にかかる時間を節約できます。

用語集には「マイ用語集」と「カンパニードキュメント」があります。

マイ用語集:

自分が登録した用語です。

カンパニードキュメント:

翻訳マネージャーが登録した用語です。社内で共有され、マイ用語より常に優先適用されます。



安心のセキュリティ。

ヤラクゼンではアカウント毎に翻訳データを個別管理。他ユーザー、他企業にデータが流出することはありません。また、データ通信の暗号化、バックアップなど安全に対する各種対策を行い、脆弱性診断をパスしています。

更にプライベートサーバーの構築やIPアドレス制限、ドキュメントの自動削除など、セキュリティを高める各種オプションもご利用できます。

次世代の 翻訳支援ツールに 期待する 24のポイント

河野 弘毅 (JTFジャーナル編集長)

特集記事の冒頭で翻訳支援ツールの過去に目を向けたので、最後の解説では視線を未来に転じて次世代の翻訳支援ツールに期待する機能について述べる。^{1,2}

基本機能の充実

- 1 各種ファイル形式への対応。Word、Excel、PowerPointは当然として、分野によってはAdobe系ファイルやマークアップ言語への対応が必要。
- 2 Officeファイルへの対応と同等かそれ以上に求められるのがPDFへの対応。ただPDFを読み込めるだけでなく元のOfficeファイルへの変換精度が問われる。購入前に確認すべき。
- 3 QAチェック機能は一般ユーザー向けのツールでも役立つ。特にニューラル機械翻訳(以下MT)の出力をポストエディット(以下PE)する場合はこの機能が必須。
- 4 指定訳語の統一は現在のニューラルMTのアルゴリズムでは実現できないため、各ツールで工夫して実現しているがその工夫が翻訳精度に影響する場合がある。ツールの購入前に、訳語を指定したときMTの翻訳品質が低下しないかどうかを確認したい。
- 5 自動ポストエディット機能。たとえば英日翻訳の訳文で「である」調or「ですます」調の統一機能や、送り仮名表記の統一機能などがMTエンジンとは別の処理モジュールとして用意されるだろう。サードパーティが

開発したモジュールを組み込む構成でもよい。この部分は言語に依存するが、日本市場では日本語に特化した機能が強みになっていく。

- 6 分節規則のカスタマイズ。たとえばセミコロンの(;)で分節するか否かはその後のMT精度を直接左右するため、細やかに設定できることが望ましい。
- 7 異なる翻訳支援ツール間での分節規則の共有。各ツールがSRXファイルのインポート/エクスポートに対応することでツールを切り替えても同一の解析結果を得られるのが理想的だが道のりは遠い。

周辺サービスとの連携

- 8 Googleドライブ、Box、Dropboxなどのリポジトリに置かれたファイルの変更を自動的に検出して翻訳ワークフローに乗せるコネクタ機能。これをうまく使うと翻訳管理の手間がかなり減る。
- 9 周辺システム(CMS、勘定系など)と連携するためのAPIの提供。追加開発が必要だがフローの自動化はいずれペイする。
- 10 既存のアドオンツール(Plunet、XTRF)でワークフローを自動化できる場合もある。ただしいずれのツールも日本独自の伝票や勘定系に容易に対応できるかどうかは不明。
- 11 翻訳者リソースをプールしておき、翻訳者割当の単純化を試みる翻訳管理システムもある。ただし成功例はまだ聞かない。大きく言えばコーディネーター業務をAIで置き換えられるかというテーマになるが、翻訳者手配は翻訳と違って素性の多様性と比較してデータ量が少なすぎるので、無理に自動化してもうまくいかないと思う。コーディネーターを代替するのではなく支援する方策を検討すべき。
- 12 クライアントの社内に翻訳発注用のポータルサイトを簡易に作成できる翻訳管理システムもある。顧客から繰り返し翻訳を受注する関係の場合はこの機能が使えるかもしれない。

1 この解説記事では翻訳支援ツールの一般的な特性について検討します。個別のツールの機能や性能の評価および比較は行いません。また、記事の内容はすべて筆者の個人的意見に基づくものであり、一般社団法人日本翻訳連盟その他の組織の見解とは一切関係ありません。

2 翻訳支援ツールがプロ翻訳者や翻訳会社ではなく翻訳の顧客企業でときどき業務文書を翻訳する一般ユーザーを対象としている場合は、この記事の指摘の一部は適用されないため、適宜ご判断ください。

MTエンジンとの統合運用

- 13** 接続可能なMTエンジン数は多いほうが良いが、時代遅れのSMTエンジンに接続できても意味がないので、自分が使いたいMTエンジンにどれだけ速やかに対応してくれるかが重要。
- 14** 2019年はアダプテーションへの対応が急速に進むと思われるので、先にMTエンジンを選んでそれに対応する翻訳支援ツールを探すパターンもあり得る。
- 15** 先にMTエンジンがあって後で翻訳支援機能を追加したツールの場合は、MTエンジンを選んだ時点で翻訳支援ツール環境がMTエンジンベンダーのそれに将来まで拘束される可能性には注意が必要。
- 16** 今後MTの精度が上がっていくと、ポストエディターへの支払金額を従来のような文字数/ワード数ベースに積算する方法がだんだん不合理になってくる。代替の支払方法として訳文側の編集距離を測る機能が必要になるかもしれない。
- 17** 訳文側でPE前後の編集距離を解析する機能は、翻訳者から納品された訳文がMT出力（たとえばGoogle翻訳）そのままではないかという翻訳会社にとって悩ましい疑惑の検証にも使える。
- 18** 和文英訳では原文側の和文をプリエディットしてMT精度を上げる手法が有効なので、翻訳支援ツール内で原文をスムーズにプリエディットできる機能が欲しい。MT精度を上げる目的でいったんプリエディットした原文を翻訳メモリに登録するときには編集前の文に戻す等の細やかな操作性も要チェック。
- 19** プリエディットは早晚、自動化またはツール化されると思う（すでにツール化されているかもしれない）。長文があれば短文に分割する、頻繁に登場する専門用語をいったん置換するなどの処理が半分でも自動化されると便利。
- 20** 与えられた文書を解析し、その文面に一番適したMTエンジン、指定訳語、翻訳メモリを複数の候補から自動選別する機能が欲しい。特にアダプテーションを行う場合は社内でも分野別に複数のエンジンを所有して管理し運用することになるが、翻訳対象文書の中身をコーディネーターがいちいち確認するのは時間もかかるしミスも増えるので、翻訳対象文書をその翻訳に適したエンジン別に自動分類するAIが欲しい。
- 21** 複数のMTエンジンの出力を並列提示する機能が欲しい。精度の甲乙をつけがたい複数のMTエンジンを利用できるときは、この機能を使って表示された複数のMT訳文から最もよい訳文候補を文単位に選択できる。
- 22** 訳文の評価までAIがやれると、翻訳フローは大幅に省力化できる。訳文評価AI機能は一部の翻訳支援ツールですでに実用化されているが、評価性能の向上はこれからの課題。
- 23** 翻訳支援ツールとMTエンジンのインテグレーションが進むと、蓄積された翻訳メモリでアダプティブMTエンジンを訓練する操作フローも簡単化または自動化されていくかもしれない。

システム運用など

- 24** セキュリティ上の要件からクラウドが利用できない場合はオンプレミスのソリューションが必要になるのは翻訳支援ツールでも同じで、この需要に応えるために現在でもオンプレミス製品を提供する翻訳支援ツールベンダーが複数ある。その場合はクライアントサーバー構成をとることになるがライセンス管理で苦労することが意外に多い。とはいえクラウド型と比較して応答が速くてよいという翻訳者の声を聞いたこともあるので、予断で決めつけずに個別ニーズに合わせてソリューションを検討すべきだろう。

翻訳支援ツールの選択がMTエンジンの成否に影響する

機械翻訳の技術革新は現在進行中だが、飛行機が飛ぶためにはエンジンだけでなく機体が必要なように、MTエンジンにはそれを組み込んでユーザーの操作を可能にする翻訳支援ツールが必要である。

同じMTエンジンを使ってもフロントの翻訳支援ツールによって翻訳の生産性が変わるし、翻訳支援ツールが提供する翻訳メモリの運用管理機能がMTエンジンの訓練効率に影響することを考えると、翻訳支援ツールの活用は今後ますます重要なテーマとなるに違いない。

翻訳会社の過去、現在そして未来

中野 尚徳

株式会社メディカル・トランスレーション・サービス
代表取締役社長

私が勤めていた翻訳会社を辞め、独立したのが1999年であった。

前職のときからずっと考えていたのは、ドラえもんに登場する、ほんやくコンニャクのようなツールができれば、翻訳者も通訳者も必要なくなってしまうのではないかということである。しかしながら、この業界に入って30年以上が経つが、いまだ翻訳会社も通訳会社も健在である。やはりまだまだ人

の力が必要ということなのだろう。とはいえ、2016年にはニューラル機械翻訳 (NMT) が登場して、その夢の道具になりつつあるのも事実である。

この産業翻訳の業界に足を踏み入れたとき、こんなにも需要があるのかと、ある意味大変驚いた。翻訳といえば多くの人は小説か、映画の字幕などを思い浮かべるのが普通である。当時はまだまだ表舞台の産業とはほど遠い存在であり、そのような翻訳会社があることすら多くの人は知らなかった時代である。

その当時を思い浮かべてみると、まだ作業ツールは英文の電子タイプライターしかなく、英訳する場合は翻訳者が手書きで翻訳した英文を社内でもリタイプし、それを納品していた。

まだワープロもなかったため、和訳する場合は翻訳者が400字詰めの原稿用紙に手書きで和訳をしたためたものをそのまま客先に納品していた時代であった。手書き

であるため、読めない文字の解読には苦勞させられた。今では翻訳単位を原文ベースでカウントしている翻訳会社も多いと思うが、翻訳単位を「枚」としているのは、翻訳者から納品された原稿用紙の枚数を数えていた名残である。その後ワープロが誕生し、少なくとも手書きの納品は終わりを告げる。

私は、営業担当として外回りをしていただが、今のようにパソコンなどなく、注文依頼は電話で内容を聞き、担当者のデスクまで直接出向き、その場で原稿をもらい、帰社後に見積りを電話で伝えていた。納品も当然持参だった。お恥ずかしい話だが、納品原稿をカバンに入れるのを忘れそのまま客先に向かい、客先に着いてそのことに気づくことが何度かあった。照れ笑いで出直す始末である。今では、アボがなければ担当者との面会することも難しく、ましてや担当者のデスクまで行くことは皆無である。営業マンとしての醍醐味を現場で味わう機会が減ったことには少々寂しさを覚えるが、どんな時代であってもその時代の流れは受け入れなければならず、古き良き時代というが、この業界で年輪を重ねてきた者にしかわからないアナログの翻訳時代は、インターネットの爆発的な普及とともに終わりを告げた。

そう、時代の流れは受け入れなければならないのだ。

インターネットの普及に伴い、世界は一変した。翻訳業界も同様で、原稿は取りにいかずともメールで届き、納品は届けに行かずともメールで送れる。面談や電話交渉が減り、メールでのやり取りの時間が増えた。日本はおろか世界中の翻訳者とも繋がるようになった。グローバル化もさらに進み、日本の翻訳業界にも隔世の感を禁じ得ない。



株式会社メディカル・トランスレーション・サービス
<http://www.m-t-s.jp>

所在地 : 大阪市淀川区
創業年 : 1999年

2015年には、ISO 17100: 2015「Translation services-Requirements for translation services（翻訳サービスー翻訳サービスに関する要求事項）」が日本でも発行され、弊社もISO17100を取得した。発行以前は、すべての翻訳会社が取得しなければならないものなのか、取得しない翻訳会社は淘汰されるのか、他社との差別化になるのか、などの点に関して賛否両論が交わされていたが、私は自社の翻訳プロセスを第三者の意見を聞き整備する良い機会と考え、ISO17100の取得を決めた。取得のための準備には多くの時間を費やしたが、社内で不足していた手順や新たな知識を従来のプロセスに組み込むことができたため、このISO17100の取得には満足している。

2016年にはニューラル機械翻訳(NMT)が登場する。

NMTとは、従来の機械翻訳の弱点であった翻訳後の文章のぎこちなさ、いわゆる「機械翻訳感」がなくなり、人間が翻訳したような流暢さを特徴とする、人工知能による翻訳だ。人工知能が将棋をする、作曲をする、小説を書く、俳句を詠む、ましてや夢を見るとまで言われている時代に、人工知能が翻訳をするくらいでは驚くに値しない。しかし、最新の機械翻訳技術は翻訳会社として無視できる存在ではない。当然、弊社でもNMTを導入した。実際に使ってみると、翻訳する文書の内容によって精度にばらつきがあり、ある程度手を加えれば人の翻訳と遜色ない水準になる場合もあれば、全く使い物にならないこともある。誤訳もあれば訳抜けもあるのがNMTの前提であり、さらには書式規程に従わない、用語も揃えない、原文のミスを発見することもできない。

故に当然、今も弊社では試行錯誤の繰り返し。

欠点ばかり並べたが、以前の機械翻訳の品質を知る私にとっては画期的な技術進歩であることには間違いなく、AIというこの傍若無人な翻訳者の翻訳速度と可能性は相当なもので、その活用方法を見出すまで、根気よく向き合っていくつもりである。

どんな時代になろうとも翻訳会社、翻訳者に最終的に求められるのは、「翻訳の質」である。これは永遠に変わることはないテーマだろう。自社のホームページの挨拶文にも書いていることだが、どんな時代であってもどんな業種であっても、買い手があって初めて商売は成立するものであり、必ず買い手が満足する商品を提供しなくてはいけない。「質の高いものを納品してくれてありがとう」の一言がすべての苦勞を忘れさせてくれるのである。同時に感謝の気持ちを常に忘れてはならない。

色々とかくだらない昔話もしてきたが、翻訳業界のこれからはどうなるのだろうか。「2017年度翻訳白書（日本翻訳連盟発行）」によると翻訳市場の規模は2561億円と推計されており、今後、需要はさらに増えるとも言われている。翻訳業界の次の分岐点は、NMTが成熟を迎えたときであろう。「そのとき」は、翻訳業界に関わるすべての人に平等に訪れる。その変化にどう向き合うかは自分次第である。

NMTがどんなに優れた翻訳をするようになって、「翻訳をする」という行為がなくなるわけではない。故に翻訳業界も翻訳会社も翻訳者もなくなるわけではない。ただビジネスモデルが変化していくだけである。永遠に変わり続ける時代の変化を受け入れて、永遠に変わらない「翻訳の質」というテーマを追い続けていくことが未来へ続く道だと思う。古き良き時代から新しい便利な時代に社会は変わってきた

が、翻訳業界もその変化に合わせて発展してきた。NMTの登場でさらなる発展が期待されるこの翻訳業界で、翻訳会社も翻訳者もその変化に適応してさらなる発展を遂げていくことを私は願っている。

AIがどんなに進化したとしても、棋士も、作曲家も、小説家も、俳人も、夢見る人も不要になる時代は来ないだろう。

そんな世界はつまらない。

人にしかできないことはまだまだ沢山あるのだから。

翻訳業界に関わる人が「みんな、楽しく、幸せに」なれる、そんな明るい未来に向けて、今は精一杯この仕事に打ち込みたいと思っている。

中野 尚徳

Nakano Yoshinori



大学時代は、フォークソング部で当時流行っていた「かぐや姫」のコピーに勤しみ、学園祭のときはステージで演奏もした。お気に入り「加茂の流れに」と「22歳の別れ」。翻訳との共通点があるとすれば、言葉も音楽もリズムが大切ということだろう。3回目の青春を今も謳歌している63歳。

翻訳を取りまく環境は様変わりしていきます。ときには戸惑うこともあるでしょう。でも、「翻訳と私」という関係は変わらないのではないのでしょうか。どんなに環境が変わろうとも、自分の軸がしっかりと根づいていたら、日々変わっていく風景にも心を感わされることはないかもしれません。初心に返ったり、立ち止まったり、未来に思いを馳せたり、「翻訳のこと」、一緒に考えてみませんか? 「なぜ翻訳をするようになったのか」 今を見据えると、きっと未来が見えてきます。翻訳と皆さんのこと、教えてください。

コラムオーナー 矢能 千秋

Where there is a will, there is a way.

翻訳と私 第14回

翻訳が教えてくれたこと

自然の溢れる場所

2017年の春、横浜市から神奈川県逗子市に引っ越しました。終の棲家にするつもりで住む場所を探すなかで、同業者の妻の「海の近く」、私の「山の近く」という希望条件を満たしてくれたのが、以前に何度か訪れたことがあり、庶民的でどこか懐かしい町の雰囲気にも好印象を抱いていた逗子でした。都心に出るには優に1時間以上はかかりますが、お互い在宅自由業なのでそれも支障にはなりません。私は家のすぐ裏手から入れる山道を毎日散歩できるのがとに



いつもの散歩コースからの光景

かく嬉しく、幸せな気分になっています(スズメバチとマムシとイノシシに襲われるかもしれないという恐怖も感じつつ)。恵まれた毎日を過ごせていることに、ただ感謝するばかりです。

翻訳者の心技体

フリーランスになって10年が経過し、最近は出版翻訳の仕事がメインになりました。ここ6年くらいは平均で年5、6冊のペースで訳しているのですが、たまに「仕事のペースが早い」と言われたりもするのですが、年間50万ワード前後しか訳しておらず、産業翻訳界の皆様ならご存知のように、特に多いわけではありません。しかも、一年を通じてほとんど休みなく働いているからなんとかこのボリュームを達成できているだけで、「仕事が早い」のではなくむしろ「仕事時間が長い」というほうが正確です。2013年頃に仕事が一気に増え、一人では対応しきれなくなり、何冊か仲間の力を借りたこともありましたが、2014年以降は、無理だと思えば断るようになって、すべて一人で翻訳するようになりました。

昔から自己管理が下手で、生活のリズムが崩れたり、心身の調子を落としたりといったことを何度も経験しました。失敗を繰り返すうちに、「仕事で安定してパフォーマンスを出すためには心身の健康が大切」という当たり前の事実を意識するようになり、少しずつ小さな改善を積み重ね、今では自分の健康にある程度の自信が持てるようになりました。1日の使い方も以前に比べるとうまくなってきたように思います(おそらく他の人ならフリーランス初日からできることを実現するのに、私は10年もかかってしまいました)。

睡眠、食事、運動

健康面では「睡眠」「食事」「運動」の3つを意識しています。「睡眠」では、毎朝自然に目が覚めるまでぐっすり眠ること、昼間でも眠気を感じたら無理せず眠るようにしています。「食事」は、昼間はなるべくお腹にたまるものはとらず、果物やナッツ、サツマイモ、ゆで卵などを、空腹感を覚えたときに口に、夜にしっかり食べるようにしています。甘い物や油物はできるだけ避け、お酒も1年半前に完全にやめました。「運動」は、有酸素運動(山道を歩く、走る)や自宅での簡単な筋トレ、ストレッチ、空き地でのボール遊び(野球の壁当て、サッカーのボールリフティングなど)、気分転換にいろいろするようにしています。

一昨年頃に不調を感じ、「これは年齢による衰えなのだろうか」と不安に感じることもあったのですが、断酒をしたのと、逗子に來てからの山登りが習慣化したのが効いたのか、ここ最近は調子が良くなりました。もう何年も仕事に1日の大半の時間をとられてしまっていたので、これからは健康を維持し、集中して仕事を終わらせて、あとは本を読んだり、外に遊びに行ったり、時間を有効に使っていきたくて考えています。

本の訳し方

本を訳すときは、まず全体を通して読み内容を頭に入れ、資料や関連書籍を読んで背景知識を深め、ウォーキングをしながらオーディオファイルで原文を繰り返し聴きます。ここまでが下準備です。実際に訳すときは、まず楽な姿勢（ベランダやソファ、お風呂など好きな場所でリラックスしながら）で原文2〜4パラグラフ程度を頭に訳文を浮かべながら2回以上読み（できる限り最終形に近い訳文を頭のなかでつくる）、それからパソコンに向かって入力し、訳文を整え、最後に原文と突き合わせて漏れや逸脱がないかを確認する、というフローをとっています。手間はかかりますが身体は楽ですし、自分としては一番質の高い訳文をつくる方法はこれなので、ずっと続けるつもりです。

転機になった仕事

これまで訳してきた本には、1冊1冊どれも思い入れがあります。毎回、新しい出会いや気づき、失敗の連続です。そのなかで特に自分の転機になったのは、2013年の『シークレット・レース』でした。これはランス・アームストロングのチームメイトとしてツール・ド・フランスを戦ったサイクリストが自らのドーピングを告白すると同時に、サイクルロードレース界全体に蔓延していた薬物使用の実態を告発するという内容です。原書を読んだとき、あまりの面白さに打ちのめされ「自分はこんな本を訳すために翻訳者になろうと思ったんだ。この面白さを読者に伝えられなかったらどうしよう」と不安に襲われました。2カ月間、無我夢中になって訳しました。著者のタイラー・ハミルトンになりきっていたので、鏡に映った自分がタイラーではないと気づいて驚いたこともあるくらいです。刊行後、多くの読者が面白かったという感想を述べてくださいました。もちろん

原書が面白かったからに他ならないのですが、「自分が心の底から面白いと思った本を、読者にも同じように感じてもらえた」という体験をしたことは、私の翻訳観、仕事観を大きく変えるような出来事になりました。それまでは「正しく、上手く」訳すことが翻訳だと思っていましたが、それと同じくらい、「この本の面白さを読者にも味わってほしい」という思いを伝えることも大切だと考えるようになったのです。それ以来、1冊の本を訳すとき、何より大切なのは読者がどんな気持ちになってその本と向き合うかだ、と考えるようになりました。

他にも、大好きなスター・ウォーズ関連の書籍を訳せることの喜びを感じつつ、7カ月間全身全霊をかけて打ち込むことができた『スター・ウォーズはいかにして宇宙を征服したのか』、5カ月間、荒波に揉まれるようにして訳し続けたサーファーの自叙伝『バーバリアンデイズ』なども、苦勞と充実感を同時に味わえ、仕事を通じて翻訳者としての成長を実感できた作品でした。



印象に残っている仕事

すべての人に感謝

今回、この原稿を執筆するにあたり、あらためてお世話になった方々のことが頭に浮かんできました。数があまりに多すぎて一人ひとりお名前を挙げられないことをお許しください。翻訳の現場と一緒に膨大な時間を過ごした翻訳会社時代の上司や同僚たち、こんな私に仕事を与えてくださった編集者やコーディネータの皆様、翻訳学校で学びの場を提供くださった講師の方々やクラスメイトたち、SNSを通じて知り合った矢能千秋さんをはじめとする同業者の皆様。いつも一緒にいて苦樂を共にしてくれる妻。すべての皆様に、心より感謝します。

Writer Profile

児島 修

Kojima Osamu



1970年生。立命館大学文学部卒。ミニシアター運営会社勤務の後、株式会社エイブス、NECソフト株式会社（現NECソリューションイノベータ株式会社）、株式会社山根ドキュメンテーション（現TransPerfect）での翻訳業務を経て、2008年よりフリーランス翻訳者として産業・出版翻訳に関わる。訳書に、『シークレット・レース』（小学館文庫）、『バーバリアンデイズ』（A&F）、『やっつけのける』（大和書房）など。神奈川県逗子市在住。

ことばの未来と
テクノロジーを考える

翻訳 テクノロジー 論考



第4回

「やさしい日本語」と翻訳テクノロジー その1

立見 みどり

立教大学 異文化コミュニケーション学部 特定課題研究員

ことばの未来とテクノロジーについて、さまざまな側面から考えるこの連載、第4回と第5回では、「普通の日本語」から「やさしい日本語」への言語内翻訳におけるテクノロジーの可能性について考えます。

「やさしい日本語」という言葉をあちらこちらで目にするようになってきました。阪神淡路大震災で日本に暮らす外国人の死亡率が高かったことから、災害情報を簡単な日本語で伝えようという考えで始まったこの取り組み¹は、その後自治体ホームページなどで提供される生活情報²、ウェブで提供されるニュース³や観光情報⁴まで広がりを見せています。わたしたちも2017年度から、「文化財の説明文をやさしい日本語で伝える」をテーマに研究を行なっています（通称「やさしい文化財」プロジェクト⁵）。

「やさしい日本語」の利点はさまざまですが、その中でもわたしが一番大切だと思っているのは、情報の受信者（主に外国人）と発信者（主に日本人）の双方にとってプラスになるという点です。受信者は、たとえ翻訳された情報の得にくい少数言語の話者であっても、日本語がある程度わかれば情報を得られます。発信者は、外国語ができなくても外国人とコミュニケーションをとることができます。そして発信者と受信者の間に「翻訳」が必要ない分、ダイレクトに、すばやくコミュニケーションをとることができます。

しかし発信側の利点が必ずしも実現できていないのも事実です。なぜなら、「やさしい日本語」自体はやさしくても、それを話したり書いたりするのは意外と難しいからです。すでに日本語を身につけてしまった人は、日本語を学習中の

人にとって何がわかりやすく、何がわかりにくいのかがよくわからないのです。実際、「やさしい日本語」で書かれている情報の多くは、日本語教育に携わる人や、「やさしい日本語」を書くトレーニングを受けた人によって書かれています。そういった知識がない人がいきなり書こうとしても、どこをどうやさしくすればよいかわからないのです。

そのため、言語の専門家でない「普通の人」でも「やさしい日本語」を簡単に書けるようにするには、書き方のルールを示すことに加え、「やさしい日本語」で書くことを支援するツールを提供することが有効です。そのような試みはこれまでも行なわれてきました。しかし、わたしたちが取り組んでいる文化財の説明文については、少し違うアプローチが必要になります。なぜなら、文化財について説明している文章には、当然ながら文化に根付いた言葉がたくさん使われていて、単純に簡単な言い方に置き換えられないからです。

さきほど、「やさしい日本語」を使うときには「翻訳」が必要ないと言いました。しかしわたしたちの研究では、文化の違いを考慮した「やさしい化」には、外国語に翻訳するときの手法も有効ではないかと考えています。そしてその考えに基づいて、「やさしい日本語」を書くことをテクノロジーで支援するためのツールの開発を目指しています。

「普通の日本語」から「やさしい日本語」への言い換えは、語句レベル、文レベル、文章レベルで考える必要があります。語句レベルでは、難しい語句を、同じ意味を示

【参考情報】

1 弘前大学人文学部社会言語学研究室 (<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>)

2 「カナル・ハママツ」(<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamaj/index.html>) など

3 NEWS WEB EASY (<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>) など

4 MATCHA (<https://matcha-jp.com/>) など

5 研究課題名「文化財をやさしい日本語・英語・多言語で紹介するための作文法と執筆支援ツールの開発」(科研費基盤研究(C) 17K00466)

すやさしい語句に言い換えます。文レベルでは、構文を単純にしたり、ひとつの文でひとつのことだけを言うように文を区切ったりします。文章レベルでは、必要でない内容を削って全体を短くします。これらはどのような分野での「やさしい日本語」にも共通して言えることですが、文化財の説明文では少し違う考え方をする必要があります。

文化財の中でもわたしたちがまず取り組んでいるのは、建造物、特に民家です。そこからいくつか例を紹介します。まず語句レベルでは、たとえば「障子」や「襖」をやさしく言い換えたいとします。その場合、単に出入り口としての役割だけを示せばよいときは、「戸」のようなやさしい言葉に言い換えることができます。しかし、「障子を通して差し込む光」がその部屋の大切な趣であるような場合は、それがわかるような説明的な言い換えが必要になります。言い換え方はひとつではないのです。これは外国語に翻訳するときにも考慮すべき点です。ではそれをテクノロジーで支援するにはどうすればよいでしょうか。ひとつは、「障子」という言葉が出てきたときに、「戸」という言葉と、「ガラスやうすい紙を通して光が入る戸」という説明を提示して、ツールを使う人が適切なほうを選べるようにする方法です。さらに一歩進んで、どちらがよいかをツールが文脈から自動的に判断できるようになれば、さらに便利になります。

文レベルでも複数の方法が考えられます。たとえば、その建物の歴史を紹介した、とても長い文があるとします。文の長さや構文などに基づいて、それが難解な文であるとツールが判断してメッセージを表示してくれれば便利です。さらにもう一歩進んで、建造の時期や施主、建物の目的などの情報を入力するとツールが自動的にわかりやすい文を生成してくれれば

より助けになるかもしれません。

文章レベルでの支援では、必要のない情報をツールが判別してくれれば役に立ちそうです。たとえば建造物の説明では、壁の色や屋根の形などについて書かれていることが多くありますが、文章を短くしたいなら、そのような「見ればわかる」情報は削ってもよいかもしれません。どの情報を削ってよいのか、ある程度の条件を設定すればツールが自動的に判断することも不可能ではないでしょう。しかしその建物にとって壁の色や屋根の形がとても特徴的であり、訪れる人にぜひ注目してほしいならば、削るべきではありません。どこまでをツールに任せるか、どこからは人が判断する必要があるのか、その見極めも重要です。

さて、このわたしたちの研究プロジェクト、実はさらに大きな目論見があります。それは、「やさしい日本語」からの、自動翻訳を活用した「やさしい英語」化、さらに「やさしい多言語」化です。「やさしい日本語」は通常、日本に住み、ある程度の日本語ができる外国人を主な対象としています。しかし文化財を見に来るのは日本在住の外国人ばかりではありません。むしろ旅行者のほうが多いでしょう。いくら日本語をやさしくしたところで、外国人観光客のほとんどには理解されないと思うのが妥当です。またこれまで日本では、「外国人は全員、英語がペラペラ」のように思われがちでしたが、実際はもちろんそんなことはありません。しかしガイドなしで外国を旅行する人の多くは、簡単な英語なら理解できる人が多いのではないのでしょうか。ならば、「やさしい日本語」から英語に翻訳した「やさしい英語」なら、多くの外国人観光客にとって有用なのではないか。また、多言語への自動翻訳は、日本語より英語からのほうが、品質が高くなる傾向にあります。そのような考えから、わたしたちの研究

では、日本語としてわかりやすいだけでなく、英語に翻訳しやすいことも念頭に置いた「やさしい化」を目指しています。

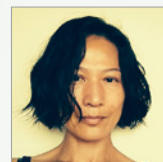
自動翻訳の品質向上手段としては、これまで「制限言語」を対象にした研究が行なわれていますが、「やさしい日本語」の特徴とは相反する点も多くあることがわかっています。たとえば自動翻訳では、ひらがなより漢字で書くほうが同音異義語の混同がなく正しく翻訳されます。また文を区切ることで文中の文脈情報が失われるため、必ずしも短い文が推奨されるわけではありません。このように相入れないことも多い制限言語と「やさしい日本語」ですが、なるべくその接点を見つけることで、「やさしい日本語」化、「やさしい英語」化、そして「やさしい多言語」化をテクノロジーで支援したいと考えています。

今回は夢のようなお話ばかりしました。次号では共同研究者の宮田玲氏が、もう少し地に足のついた技術的なお話をさせていただく予定です。

Writer Profile

立見 みどり

Tatsumi Midori



ソフトウェア開発会社でのインハウス翻訳者およびフリーランス翻訳者を経て、インベリアル・カレッジ・ロンドンにて「翻訳技術を利用した科学・技術・医学翻訳」修士課程修了(MSc)。ダブリン・シティ大学にて博士課程修了(PhD)。現在、立教大学 異文化コミュニケーション学部 特定課題研究員。「やさしい文化財」プロジェクト研究代表者。

言葉を チカラ 紡ぐ



●「言葉を紡ぐ」:
綿や繭から糸をつむぐように、
丁寧に言葉を選んで文を作ること。



連載オーナー

遠田 和子

日英翻訳者



wordsmith

第3回 ペア翻訳のすすめ

ゲスト執筆者

蔭山 歩美

映像翻訳者

ジョナサン・M・ホール

日英翻訳者、通訳者



井樫彩監督『真っ赤な星』英国レインダンス映画祭出品

合わせいただくことも多いです。ある時、某プロデューサーから「これからどんどん海外の映画祭に出すつもりだけど、自分は英語ができないので英語字幕の質は分からない。だから正直、英語で文字が並んでいればとりあえずOKなので、安くやってくれる人がいればそっちに頼んじゃう」と言われました。大人数が携わってこだわって完成させた作品なのに、字幕に関してはここまで無頓着なのかと衝撃的でした。分野を問わず「翻訳あるある」なのかもしれませんが、「英語ができる＝字幕もできる」と考える人もいるのが現実です。

映像翻訳でよく知られているルールは文字数制限ですが、気をつけるべき点はその他にもいろいろあります。まず字幕の区切りやタイミングを決めるスポッティングという作業は、地味ですが技術を要します。例えばドキュメンタリーでは長〜い一文を話す人物が登場することも珍しくありませんが、一文が終わるまでを長い1枚の字幕にして画面いっぱい10行も表示するというわけにはいきません。まずどこで区切れば読みやすいかを判断する必要があります。そのうえで視聴者がきちんとついてこられるように、一文がまたがるのは字幕2枚までというのが原則です。そして会話部分に対する1枚の字幕は2行までが原則なので、大勢が同時にしゃべっている場合は、どの情報を字幕にするのかを取捨選択しなくてはなりません。逆にかなり小さい声で本筋と無関係の声の場合は、あえて字幕にしないという選択もあります。また映像があるので、うなずいているのにNoという字幕をつけるのは不自然というようなケースも珍しくありません。字幕は通常、本のように戻って読み直すことができないため、各セリフの役割を見極めて、流れを止めずに視聴者になるべくストレスなく作品を楽しめるように適切に処理する必要があります。

映像翻訳の現状と制約

商業作品の場合はほとんどが制作会社からのご依頼ですが、インディペンデント作品の場合は監督やプロデューサーから直接お問い合わせ

ペア翻訳の利点

映像翻訳では、方言、言葉遊び、流行語などが頻出します。また母国語の視聴者が持つ共通認識を何とかして補足しないと意味が通らないこともままあります。本のように注釈をつけることができないため、あらゆる手を使って字幕だけで解決しなくてはなりません。そんなときにペアで字幕を作っていると、いろいろな可能性を相談し、ベストだと思われる案を選ぶことができます。私たちは、ひとりが米・英国籍で両国の文化的背景を持つ米国在住の男性、もうひとりが日本国籍の日本人女性という属性が異なるふたりで、年代も違います。

日英翻訳するにあたり両側のネイティブがいることで、片方は英語圏の一般視聴者に寄った見方、もう片方は元の脚本に寄った見方が自然とできているので、例えば補足が必要になる部分や方言の処理などは話し合いながらバランスを取ることができます。逆に非ネイティブだからこそ気づけることやできることもあります。例えば日本人には当たり前すぎて補足が必要だと気づきにくい文化の違いや考え方の指摘、そして映画祭の視聴者は米語が母国語の人たちだけではなく世界中の英語話者なのでスラングをどの程度使うのかという微調整です。方言などの特殊な部分でなくてもそれぞれの解釈が異なることもあり、そんなときは全体のバランスを整えながらとことん話し合っ、作品にとって最適だと思われる道を選択します。

冒頭に「速さを求めるなら人海戦術」と書きましたが、では携わる字幕翻訳者が多ければ多いほどいいのかというと、そうは思えません。翻訳会社によっては、1本の作品を「1人10分に区切って10名に依頼する」というような方法も取っているようです。翻訳する以上は翻訳者の解釈になるのは当然

で、それが10通りあるものを機械的につなぎあわせてしまうというのは非常に危険に思えます。仮に翻訳後に全員が字幕を相互チェックしてとことん相談しながら仕上げたり、翻訳会社の担当者が各字幕をこまかくチェックして統一をはかったりするならばいいのかもしれませんが、それならばペア翻訳のほうがよほど速く仕上げられますし、人海戦術の場合は大概急いでいるためそこまでじっくり仕上げているとは思えません。本来はそれぞれのセリフが密接に関連していて、ひとつひとつのセリフを逐語的に訳せばいいわけではないのに、そんな風にぶつ切りにされては字幕のトーンが統一されている可能性は低そうです。もちろん「人海戦術＝質が悪い」とはかぎらず、逆に1人の翻訳者やペアの翻訳チームに頼めば高品質という保証はありませんが、少なくともトーンや解釈にばらつきが出るリスクは減ります。

私たちの場合は解釈が異なるときは相手に譲ることも、逆に「ここは」という部分は自分の意見を通すこともあります。ですがこの手の話し合いはお互いに信頼していないと難しいです。というのも翻訳学校のクラスでさえ、同じ課題に対して十人十色の字幕がついていて、各自こだわっている部分が驚くほど違うのです。全員がベストだと思って仕上げてくるので、意見が割れて平行線というようなケースも多々ありました。仮に人海戦術でそのように合わない相手とランダムで組まされてしまったらお互い不幸ですし、納期までに統一されたトーンで仕上がるとは思えず、作品が犠牲になってしまいます。

ペアで翻訳する良さは、異なる解釈の可能性を検討しつつも一貫性を保てることです。単純に2人いればお互いのミスを発見できるという側面もありますが、「なるべ

く翻訳者の訳文をいじらずに不自然な部分だけを指摘する」というネイティブチェックとは異なり、ペアで字幕を作る場合はもっと深い部分まで掘り下げて一緒に字幕を仕上げられるのです。また、じっくり作るため字幕が完成する頃には作品に愛着を覚えていて、その後の海外展開に関しても若手の監督やプロデューサーの相談に乗ることもあります。そんなときも2人いるほうがいろいろなアイデアが出ますし、それぞれ知っている関係者を紹介することもできます。そしてこれもまた「翻訳あるある」ですが、過去の経験が思わぬところで役立つことがあり、まったく別の背景を持つ人とペアを組むというのは単純に経験が2倍になるので、いろいろな分野の作品に挑戦しやすいというのも強みです。

Writer Profile

蔭山 歩美

Kageyama Ayumi

西洋稀覯書店に就職後、フリーランスの映像翻訳者に転向。主に日本映画の英語字幕制作と、海外ドキュメンタリーの日本語版ボイスオーバー台本制作を手掛ける。



ジョナサン・M・ホール

Jonathan M. Hall

日英翻訳者、通訳者歴20年以上。日本映画、マンガ、アニメに関する講義を多数行い、東アジアの映画を紹介する学芸員としても活動している。



キャンパスで学ぶ 翻訳通訳

大学における
翻訳通訳専門教育の現在



第3回 翻訳通訳学メディア『ワカテ翻訳』とは

平岡 裕資／大西 菜奈美

関西大学外国語教育学研究科修士課程

『ワカテ翻訳』は、昨年（2018年）の春に立ち上げた、大学院生による翻訳通訳学メディアです。次世代の高校生・大学生を主な読者層としつつ、翻訳通訳学の知見を共有することを主な目的としています。

また同時に、月に一度の勉強会『ワカテミートアップ』を開催しています。このミートアップでは、若手を中心に、翻訳に関する特定の問いに対してインフォーマルな議論を行います。この記事では、当メディアとミートアップを立ち上げた経緯、そして実際の活動について簡単にご紹介します。

くいかもしれない。そう感じた私たちは、翻訳通訳学を高校生・大学生向けにカジュアルに紹介する翻訳通訳学メディア『ワカテ翻訳』を作りました。

柔軟な若手が運営

当サイトの主な運営者は学びの過程にいる大学院生たちです。そのため、書籍と比べて、情報の質が落ちてしまうことは否めません。しかしその一方で、私たちに得意なこともあります。それは多角的な視線に柔軟であること。翻訳通訳学は翻訳・通訳という営みを分析対象としていることから、人文科学や文化芸術だけでなく、社会科学や文化芸術だけでなく、社会科学や文化芸術だけでなく、情報工学へと多岐にわたる分野を対象とした学問です。そのような学問を扱うには、様々な分野に目を向け、多角的な視点から情報を得ようとする柔軟な姿勢は重要であると考えられます。



現在、アクティブな運営者は3人ほど。



ワカテ翻訳

<https://wakate-honyaku.net>

Twitter @wakate_honyaku

立ち上げの経緯

ネット上における知見の少なさ

立ち上げ人である筆者の平岡が学部3年生の頃。大学院入試に向けて翻訳通訳学を学ぼうと、オンライン上の翻訳通訳学をサーチしたところ、そこにはほとんど情報がないことに気づきました。あるのは、社会人文系でも統計学や言語学など。頼りになるのは、『よくわかる翻訳通訳学』（ミネルヴァ書房、鳥飼玖美子編著）などの書籍のみでした。しかし、知見が書籍ばかりに集中しては、次世代のデジタルネイティブには届きに

対話する場の必要性

この姿勢は知識を収集するだけでは育めません。同時に多様な人々との関わりが必要です。つまり、異なる背景を持つ他者と対話し、建設的な議論を行うことが必要です。そもそも、知見を得ることだけが学問ではなく、どの問題にどのように答えるかを考えることまでが学問であるはず。そして意味のある学問を行うには、実際に他者との議論が重要です。私たちはこの物理的な場が大学外に必要と感じ、議論を実践するための『ワカテミートアップ』を開催することにしました。ミートアップの機会を設けることで、意見を伝えるために情報を整理し、他者との関わりを元に再検討し、新たな考

えを生み出すことが可能です。この繰り返しのプロセスを、異なる背景を持った生身の人間とともに行うことで、より柔軟な姿勢を育みつつ、学びを深める手助けとなるのではないかと考えています。

活動の目的

次世代に向けた発信

私たちは、次世代の日本の翻訳業界を担う可能性のある学生に向けた発信が必要だと考えます。事実、現在日本の翻訳業界において、若手の翻訳者の割合はかなり小さいです。日本翻訳連盟 (JTF) による「2017年度翻訳白書」では、20代の翻訳者は2%も満たしません。これには、大衆化された大学において体系的な翻訳通訳教育がなされていないこと、そして、大学生が翻訳通訳に触れる機会が過少であるということが理由の一つだと考えられます。また、翻訳通訳学も、学問としてはまだまだマイナーな分野です。当研究分野や業界がさらに成長するためには、実践と理論の両方の面における教育体系が不可欠です。『ワカテ翻訳』ならびに『ワカテミートアップ』はその一環として、大学外における学びの場を目指して活動しています。

若手の実践的な学びの場

『ワカテミートアップ』は翻訳通訳に関連するトピックに対して若手が議論を行うオープンな対話の場です。ここで言う議論とは、相手を言い負かすようなものではなく、気づきや価値のある問いを生み出すような建設的なものを指します。これは研究を行う上でも重要な要素となる「批判」や前述の柔軟な姿勢の形成に繋がります。また、人文系においては研究が個別的になりやすいことから、若手だけで議論を行う機会があまりないと感じています。このような意味でも、『ワカテミートアップ』がより広い視野を持つきっかけとなり、若手にとって意義のある対話の場となることを目指しています。

実際の活動

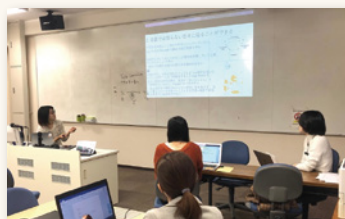
『翻訳のいろは』と『翻訳ライブラリ』

次世代に翻訳通訳学を発信するため、当サイトでは記事の執筆と文献リストの作成を行っています。それが『翻訳のいろは』と『翻訳ライブラリ』です。『翻訳のいろは』では、高校生・大学生向けに当学問分野の知識を身近な例とともに解説しています。翻訳等価論などの理論だけでなく、翻訳プロセス研究の概要や外国語教育における翻訳 (TILT: Translation and Interpreting in Language Teaching) など、具体的な研究方法や近年議論されているトピックについても触れています。

『翻訳ライブラリ』は翻訳通訳の文献リストです。翻訳通訳に興味を持った読者が他の情報源にアクセスしやすいように、論文・書籍・コミュニティ・ツール・メディアなどをカテゴリー別にまとめています。

『ワカテミートアップ』

より実践的な学びを得る場としてのオフライン活動として、若手の大学院生たちが翻訳に関する問いをもとに、活発でインフォーマルな議論を行なっています。重要なことは議論したままにしないこと。議論した内容は、『ワカテ翻訳』で『学びのアーカイブ』として記事化し、各々の結論とディスカッションを言語化します。こうすることで、発表者の考えを整理するとともに、議論の内容をパブリックに発信、そして問いかけ、さらなる議論へと結びつけます。



毎月第3日曜日の午前に集まり、議論を行なっています。場所は関西大学千里山キャンパス。

2018年11月からこれまで3回にわたって「AI翻訳と英語教育」というトピックを設け、「AI翻訳が使える時代に、英語学習は必要なのか？」という大きな問いについて議論を行いました。初回と最終回に各々の意見を発表し、残りは文献調査とパイロットスタディの結果を共有する機会を設けました。このミートアップのアーカイブは当サイトで閲覧できます。

今回の記事では私たちが『ワカテ翻訳』を立ち上げた経緯とその活動内容を紹介しました。次世代の若手に向けた発信と実践的な学びの場を目指して、これからも活動に励んでいきます。

『ワカテミートアップ』では、参加者を随時募集しています。興味のある方は当サイトの募集ページをご覧ください。



Writer Profile

平岡 裕資

Hiraoka Yusuke



関西大学外国語教育学研究科修士課程
研究テーマは翻訳テクノロジー論・字幕翻訳論・外国語教育論など。「あそび」としての学問を目指しつつ、謙虚に生きる方法を模索しています。

Twitter @hyusuke59

大西 菜奈美

Onishi Nanami



関西大学外国語教育学研究科修士課程
研究の関心は、翻訳プロセス。特に「HT(人手翻訳)」に必要な力をプロセスの観点から追求します。モットーは「とりあえずやってみること」。自分には難しいと思えることも、挑戦してみるのが大切と言い聞かせています。

募集

広告募集のお知らせ

翻訳者、翻訳会社を対象とする広告や特集記事に関連する広告を随時募集しています。詳しくはJTF事務局までお問い合わせください。

JTF事務局 : TEL 03-6228-6607

E-mail info@jtf.jp

Next Issue

翻訳の現在を知る

次号
予告

JTF

JOURNAL

#301 2019

05/06

2019年5月10日発行予定

※発行日や内容は変更になる可能性があります。

特集「日本の通訳翻訳史」(仮題)

次号の特集では、日本通訳翻訳学会(JAITS)の「日本の通訳翻訳史」研究プロジェクトに参加している研究者の皆さんに、おもに江戸時代に日本国内で活躍した通訳翻訳者の姿を紹介していただきます。近世の阿蘭陀通詞・唐通事・朝鮮通詞・琉球通事・蝦夷通辞・漂流民通訳者の物語にご期待ください。

Editor's note

機械翻訳批判を考える

ニューラル機械翻訳の品質が世間に知られるのにもとないSNS等で機械翻訳(以下MT)への批判を目にする機会も増えた。私の理解でMT批判の論点を整理すると、第一は従来翻訳よりも安くポストエディット(以下PE)を発注しようとする一部の翻訳会社への異議申し立てであり、この批判はおおむね妥当だと思う。一部の翻訳会社が、「MTの品質が上がったのだからPEの単価は下がるだろう」という性急な願望から、然るべき翻訳工程の変更や品質要件の再定義をせずに翻訳者に単価切り下げを求める事例もあると聞く。怒った翻訳者がMTへの批判(に仮装された一部の翻訳会社への非難)を展開する事情は理解できるし、上司である経営者と発注先である翻訳者のあいだで板挟みになって苦しむ現場の担当者には本当に同情する。

MT批判の第二の論点は「PEをやると翻訳が下手になる」という主張であるが、こちらについても主張の動機は理解できる。訳文を自分の内側から産みだす従来の翻訳と、まずMTの出力を見てそれを修正するPEとでは訳文完成に至る思考プロセスが異なり、PEを何万回も繰り返すことで訳者の言語感性が変容する可能性はある。長く異国に住む人の言語感性がいつのまにか母国の母語話者とずれていくのと似ている。この主張の背景には、自分の言語感性がそれとは異質のエキリチュール文脈(MT、異郷、翻訳メモリ...)にさらされ続けることで変容(破壊)されることへの不安または嫌悪がある。

私の考えを書くと、ソシュールが看破したように言語に絶対基準はなくただ一般規約があるだけで、社会的要因にもとづくエキリチュールの急変は過去にいくつも事例がある(たとえば明治維新にともなう日本語の変容)。このたびのMTの浸透もまた、たぶん世界規模でエキリチュールの変容をもたらす。仕事で大量にMT出力を読むポストエディターは、キャズム理論にみればこの変容のアーリーアダプターであろう。一般言語感性が変容する結果、〈上手な翻訳〉の共通了解もまた変化する。この変化に対して、一部の経営者は性急であり一部の翻訳者は慎重なのだと考えればわかりやすいと思う。

編集長 河野 弘毅
Kawano Hiroki

JTF JOURNAL

JTFジャーナル

2019年3/4月号 #300

- 発行 ● 2019年3月8日
- 発行人 ● 東 郁男(会長)
- 編集人 ● 河野 弘毅
- 発行所 ● 一般社団法人 日本翻訳連盟
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-2 宝国ビル7F
TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604
info@jtf.jp http://www.jtf.jp/
- 企画・編集 ● 広報委員会
- 表紙撮影 ● 世良 武史
- デザイン ● 中村 ヒロユキ(Charlie's HOUSE)
- 印刷 ● 株式会社 プリントバック



業務拡大につき急募!

半導体 / 旅行・観光分野の
翻訳者が不足しています。

未登録の方

<https://midoriga-me/login/> からご登録→トライアルを入手。

他にも、IT、契約書、金融の和訳、英訳、独文和訳のトライアルを用意しています。

登録済の方

あらたにメディカル分野にとりくみたいとご希望の方は toin_contact1@to-in.co.jp までご連絡ください。

Communications for
a global marketplace



お知らせ!

第29回 JTF 翻訳祭 in パシフィコ横浜

2019.10.24 (木)

十印は実行委員として、
翻訳祭成功のために尽力しています。



株式会社 十印 (とおいん)
〒108-0014 東京都港区芝 5-31-19 ラウンドクロス田町 7F
TEL 03-6453-6285 (採用担当窓口まで) <http://www.to-in.com> (「お問い合わせ」)

Est. 1963

SDL* Trados Studio 2019 SR1

Service Release 1 (SR1) がリリースされました！

- 整合機能の改善
- 翻訳メモリの最適化
- レビュー機能の改善

～まずは30日間無料トライアル
版をご体験下さい！～

詳細はウェブサイトをご覧ください

Freelance translators & Translation agencies:
sdltrados.com/jp/studio2019SR1

Corporations:
sdl.com/jp/studio2019SR1

SDLジャパン株式会社
東京都目黒区上目黒2-1-1 中目黒GTタワー4F

お問い合わせ（Trados Studio販売窓口）
03-5773-1471
sales-jp@sdl.com

Copyright © 2018 SDL plc. All Rights Reserved. SDLの名称とロゴ、およびSDL製品名とサービス名は、SDL plc
および／またはその子会社の商標であり、その一部は登録商標である可能性があります。
その他の会社名、製品名、サービス名は、各所有者に帰属します。